

平成 29 年度

中英研會報

第 76 号

東京都中学校英語教育研究会

平成 29 年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成 29 年 3 月に告示された次期学習指導要領においては、小学校第 3 学年から外国語活動を、第 5 学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長・幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
 - (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020 パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
 - (2) 「東京都小学校英語活動研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、次期学習指導要領を見据えながら、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP、Facebook 等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目 次

- 移行期間が始まります……………石鍋 浩… 1
- 英語は基本的に英語で教えることの意味 ……吉田 研作… 2
- 平成 29 年度 東京都教育委員会の取組み
～「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」～……………窪田 香… 4
- 東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について ……中谷 愛… 5
市川 拓治

実践研究

- (1) 平成 29年度 研究開発委員会報告 概要
即興性を高める指導手順とポイント
～「主体的・対話的で深い学び」の視点を通して～……………東京都教育委員会… 7
- (2) 平成 29年度 東京都教育研究員 中学校外国語部会報告 概要
目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りするための指導の工夫……………東京都教育委員会… 11
- (3) 英語学芸大会 Playの部 第1位
“Seize the Day 2017 今を生きる！” ……井村 哲也… 15
- (4) 英語学芸大会 Speech部 第1位
英語を楽しむ姿勢を育む……………佐川 雅美… 16
- (5) 都中英研・研究部公開授業を終えて……………太田 裕也… 17
- (6) 教師道場での取り組みについて……………松澤みずほ… 18
- (7) 関東甲信地区ブロック長野大会
グローバル社会を生きる日本人に求められるコミュニケーション能力の育成
～CAN-DOリストを活用した指導と評価の工夫～ ……佐藤ひろみ… 20
- 各部報告
 - ・総務部報告……………刀根 武史… 22
 - ・事業部報告……………横山 達也… 23
 - ・調査部報告……………五十嵐浩子… 24
 - ・研究部報告……………伊地知義信… 25
 - ・プロジェクト・チーム部報告……………斉藤 節子… 26
 - ・出版部報告……………今本由美子… 26
- 研究大会報告
 - ・第57回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（川崎市大会）
遠藤 哲也… 27
 - ・全英連報告 第67回 全国英語教育研究団体連合会総会（新潟大会）
惣田 修一… 28
 - ・第 41 回 関東甲信地区英語教育研究協議会（長野大会）
刀根 武史… 29
- 各地区の活動状況…………… 30
- 中英研事業報告…………… 56
- 中英研会則…………… 58
- 役員一覧…………… 60
- あとがき…………… 63

移行期間が始まります

会 長 石鍋 浩
(東京都中学校英語教育研究会)

ご承知の通り、平成30年4月から新学習指導要領への移行期間（3年間）が始まります。マスコミ等では、小学校ばかりが注目されています。そのためか、中学校現場では、新学習指導要領の全面実施までまだ3年あると考えている場面が散見されます。移行期間は徐々に新たな考えを取り入れていけばよいと考えている向きも一部にはあるようです。

ここで、移行期間に中学校に入学してくる生徒について詳しく考えてみましょう。平成30年4月入学の生徒（今の小学校6年生）は、中学入学までに2年間で70時間外国語活動を学習してきました。平成31年4月入学の生徒（今の5年生）は、今年度35時間、来年度6年生として50時間の計85時間学習してきました。平成32年4月入学の生徒（今の4年生）は、計100時間学習してきました。来年度の小学校1年生が中学に上がるまで小学校での学習時間は毎年増加するのです。また、新学習指導要領全面実施時には教科書が変わります。今の5年生は中3から、4年生は中2から新教科書に変わるのです。

移行期間に中学に入学する生徒たちは学年によって小学校における学習経験や新教科書の導入等の状況が大きく異なります。中学校の英語科教員はこの状況に対応する必要が出てくるのです。新学習指導要領の標準時数や教科等の枠組に変更がないから中学校での変化は少ないと考えることが間違いであることがわかります。この4月の移行期間開始と同時に、新しい方向へシフトできるように、早急に準備を始めていかねばならないのです。

併せて、東京都では、今年度からパフォーマンス評価に関する教員研修が始まりました。平成31年度からは全国学力・学習状況調査に英語調査が加わり、「話すこと」の調査も実施されることになりました。平成32年度からは、大学入試に「話す」「書く」力を測るために民間試験が導入されます。まさに、英語教育改革が今まで経験したことのない規模とスピードで進んでいくわけです。

都中英研としても、英語科教員の学習指導力を向上させるべく、英語教育改革を見据えながら、複数の部でワークショップを企画・開催しております。これからは、小学校、高等学校との接続もさらに意識して、ワークショップの内容を発展させて参ります。

私たち英語科教員は、この移行期間の始まりを英語教育改革のスタートと捉え、この大改革の時期に英語教育に携われることをチャンスと考え、学習指導の更なる改善に取り組んでいきましょう。

英語は基本的に英語で教えることの意味

吉田 研作
(上智大学)

中学校の新学習指導要領の留意事項に、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と書かれている。ここでいう「授業は英語で行うことを基本とする」ということがどういうことを意味しているのかについて考えてみよう。

第2期教育振興基本計画（2013）で文部科学省は平成29年度中の到達目標として中学生で英検3級レベルを目標に設定した。しかし、平成28年度までに中学生で英検3級か同等の英語力があるとされている生徒は、36.1%（平成24年度31.2%）にとどまっている（文科省、2016）。つまり、2018年3月までこの目標に到達してなければならないのだが、実質的にそれは無理であろうことはすぐ分かる。

この目標達成のために文部科学省は教員の英語力レベルを英検準1級に設定し、中学校教員の50%の達成目標を示した。実際、中学教員の英語力は向上している。平成24年度に27.7%だったのが28年度には32%に伸びた。しかし、平成29年度中に目標に到達できるかどうかは甚だ疑問である。

教員の英語力は大事だが、それは必ずしも生徒の英語力と相関するとは限らない。つまり、英語力があっても英語で授業をしていなければ、生徒の英語力は伸びないだろう。そこで、英語の授業時間の50%以上を英語で教えている教員の結果を見ると、中学校教員の約63%が授業の50%以上を英語で教えている、ということが分かった。特に中学の場合は年々その数は増加している（平成24年度には約42%だった）にもかかわらず、中学生の英語力はあがっていないのである。それはなぜなのだろう。

ベネッセ（2015）が行なった中学の英語教員の英語の授業の指導に関する調査の結果を見ると、教師が行っている指導内容は、ほとんどが言語「知識」を教え、その知識を練習することが中心になっていることが分かる。具体的には、教員の80%以上が行なっていると答えている活動は、音読、発音練習、文法説明、文法の練習問題、教科書本文のリスニング、教科書本文の内容に関するQ&A、キーセンテンスの暗唱と運用というように、全て言語形式を身につけさせるための指導に関するものなのである。

逆に、あまりやっていない活動（よく行っている教員が10%未満）としては、ディベート、ディスカッション、英語で教科書本文の要約を書く、初見の英文を読む、英語で教科書本文の要約を話す、聞いたことがない英語を聞く、即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す、長文読解、スピーチプレゼンテーションなどとなっている。つまり、授業は英語でやっているが、言語形式の定着（練習）に重きが置かれ、その知識を活用したコミュニケーション活動はあまりやっていないことがわかるのである。

さて、新学習指導要領では、授業を英語で行うこととしているが、解説書には次のように書かれている。

「英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えることを意味する。さらに、教師が授業中に積極的に英語を使用することが、生徒の英語使用を促すことにつながり、生徒とのやり取りが豊富になる。言語活動においては…『実際に英語を使用して互いの

考えや気持ちを伝え合うなど』のコミュニケーションが中心となることから、生徒が積極的に英語を使って取り組めるよう、まず教師自身がコミュニケーションの手段として英語を使う姿勢と態度を行動で示していくことが大切であるというのである。

このことからわかるように、英語で授業を行うということは、単純に教師が授業の最初から最後まで英語で「講義」することでないことがまず分かるだろう。「教師自身がコミュニケーションの手段として英語を使う姿勢と態度を行動で示していく」ことの大切さが述べられていることから、教師自身が英語を使うモデルとして大きな意味を持つことは確かだが、もっとも大切な目的は、生徒自身が英語で言語活動を行うことであり、教師は、生徒が主体的に英語を使う場面やトピックを提示できなければならないのである。さらに、内容的にも、生徒が自らの考えや気持ちを伝え合うことができるような内容でなければならず、単に教師が与えた英語を覚えたり、練習したり、繰り返したりするだけではだめだ、ということになる。

上記ベネッセの結果で言えば、教師が「良くやっている」と答えている指導内容だけではだめで、あまり、あるいはほとんどやっていないと答えている活動を中心に授業を行わなければならないことが分かるだろう。なお、もう一点付け加えると、授業を英語で教えるということは、例えば、文法などの言語形式の説明なども英語で行う、という意味ではない。特に日本語にない、あるいは、複雑な文法の説明をしなければならない場合は、日本語で行う方が効果的なことがよくあることも覚えておく必要があるだろう。

英語の授業を英語で行う最大の目的は、生徒に英語でコミュニケーションをする機会を与えることである。生徒にとって、英語でコミュニケーションする機会は、日常生活において、授業をのぞいてほとんどない。なのに、唯一英語でコミュニケーションする機会となっている英語の授業を日本語を使って英語の「知識」を与えるために使ってしまうてはならないのである。英語を使ったコミュニケーション能力の育成が最大の目標に据えられている以上、生徒が意味のある環境において英語でコミュニケーションする機会は絶対に必要なのである。

参考文献

ベネッセ. 中高の英語指導に関する実態調査 2015 2015

<http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=476>

文部科学省 第2期基本計画 2013

http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/20/1336379_01_1.pdf

文部科学省 平成27年度英語教育実施状況調査(中学校)の結果概要 2016

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/04/05/1369254_2_1.pdf

文部科学省 中学校学習指導要領 2017

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編 2017

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018_10_1.pdf

平成29年度 東京都教育委員会の取組み

～「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」～

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

平成29年3月に新学習指導要領が公示され、3年後には新学習指導要領が全面実施されます。今回の改訂では、「話すこと」の技能が「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」に分けられるなど、生徒の「話すこと」における発信する力が重視されていきます。こうした状況を踏まえ、東京都教育委員会では今年度から3年間をかけて、すべての中学校の英語の先生方を対象とした新学習指導要領に向けた指導・評価の在り方をテーマとした研修会「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を実施することにしました。本年度は初年度として7月31日から8月2日までの3日間、研修を実施いたしました。

本研修の開催に当たりましては、国分寺市立第二中学校 重松 靖校長先生、小平市立上水中学校 五十嵐 浩子校長先生に御講演いただいたこと、東京都中学校英語教育研究会の先生方にワークショップの企画・運営に御協力をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。

研修会後に受講者を対象に行ったアンケート調査の結果では、「パフォーマンステストの実施目的の理解」「授業改善の方策の理解」などの多くの項目について、95%以上の受講者から「理解できた」などの肯定的な回答をいただくことができました。

こうした研修に加えて、生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導と評価を一層定着・発展させるために、本年度末に指導資料DVDの作成・配布を予定しています。この指導資料DVDの作成に当たっては、文部科学省初等中等教育局 平木 裕視学官、国分寺市立第二中学校 重松 靖校長先生から御監修をいただきました。ぜひ各学校の教科部会等で話題にさせていただくなど、御活用いただければと思っております。

さて、平成30年度には、平成29年度に受講しなかった方を対象に2年目の本研修を行います。また、小学校高学年での外国語科の全面实施に向け、移行措置期間が始まります。小学校での外国語科の導入を受けて、中学校にどのように円滑に指導を接続するか、第1学年での英語科の指導を検討する必要があります。そこで29年度から2年間、中学校英語モデル地区を2地区指定して研究を進めていただいています。平成30年度末にはその取組成果の発表も予定しております。

東京都教育委員会といたしましては、今後とも貴研究会との連携をより一層深めながら、東京都における英語教育の充実に取り組んで参ります。

末筆になりますが、貴研究会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 統括指導主事 中谷 愛
指導主事 市川 拓治

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の教員を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで専門性向上研修を実施しています。平成29年度に計画・実施した講座を以下のとおり紹介します。

1 指導力向上を目指した研修

（1）文部科学省事業に関連した研修

①英語教育推進リーダー中央研修

教員が、一定期間勤務地を離れて中学校における英語教育推進リーダーを養成するための研修です。研修修了者は、英語教育推進リーダーとして、各地域で中学校の英語担当教員等を対象とした研修や授業及び評価の改善のための指導・助言を行っています。

②英語教育推進リーダー中央研修還元研修

英語教育推進リーダーが、中央研修の成果普及を目的として、全14時間のプログラムを4～6回程度で実施する研修です。対象は、区市町村立中学校（都立中学校及び中等教育学校前期課程、義務教育学校後期課程を含む）の英語科全教員で、平成31年度末までに受講することが義務付けられています。

③外部専門機関と連携した英語指導力向上のための教員研修

英語ネイティブ・スピーカーによるオールイングリッシュの指導により中学校の英語科教員の指導力と指導に必要な英語力の向上を目指す研修です。生徒の英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことを主眼に置いた授業を行う力と、研修成果を所属校の英語科教員に還元する力の育成を図ることをねらいとしています。

④英語教育推進リーダー等による授業公開及び協議会を通じた英語指導力向上のための教員研修

文部科学省平木裕視学官の講義及び小・中・高等学校の英語教育推進リーダー等による授業公開を通して、学習指導要領の改訂ポイント等の理解や授業改善を図ることをねらいとして実施しました。

（2）大学と連携した研修

①英語 I 「授業づくりの基礎・基本」

中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な授業展開や指導方法、学習評価について学びます。

第1回講師：東京家政大学 教授 太田 洋 先生

第2回講師：新潟大学 教授 松沢 伸二 先生

②英語Ⅱ「「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の指導の充実」

コミュニケーション能力を育成する指導法や授業づくりについて、実践を通して学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

第1・2回講師：津田塾大学外国人講師

③英語ⅡB「生徒の英語力向上を図る指導の在り方」

中学校における英語教育の今日的な課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図る研修です。

第1・2回講師：上智大学 特任教授 吉田 研作 先生

④外国語活動Ⅱ「教科化に向けた小学校外国語教育の在り方」

教科化を踏まえた指導法や授業づくりの具体的な展開を理解し、小学校と中学校の外国語教育の円滑な接続を図る指導について学ぶ研修です。

第1回講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 先生

第2回講師：玉川大学大学院 教授 佐藤 久美子 先生

⑤英語Ⅲ「ALT等を活用した授業のねらいと実践」

中学校における効果的なネイティブ・スピーカーの活用や授業の工夫などについて学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：文教大学 教授 阿野 幸一 先生

⑥英語ⅢB「TESOL等を用いた英語の授業とねらいと実践」

海外派遣者の実践報告等を通して、TESOL等の指導法を学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：上智大学 教授 和泉 伸一 先生

2 英語力向上を目指した研修

(1) 外部委託者所属の外国人講師等による英語力向上研修

①「英語力向上集中講座」(全3回)

外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高めます。

②「英語カフェテリア講座」(全6回)

外国人講師との会話等を通して、「話す力」と「書く力」を高めます。

③「英検(準1級・1級)取得支援講座」(全7回)

英語検定試験(準1級・1級)を取得することを目標として、実践的な英語力を高めます。

④「TOEIC(730点・860点)突破支援講座(中・高等学校)」(全5回)

TOEIC L&R(730点以上・860点以上)を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高めます。



【英語力向上研修チラシ】

3 平成30年度の研修について

平成30年度の研修内容は、「平成30年度研修案内」又は「マイ・キャリア・ノート」を御覧ください。



専門教育向上課キャラクター「ワコジョ」

即興性を高める指導手順とポイント

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を通して～

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

I 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、情報化やグローバル化等による急激な社会の変化に対応できる人材を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進すること、また、外国語科としては、対話的な言語活動を重視する観点から、実際のコミュニケーションにおいて英語を即興的に活用できる技能を身に付けるようにすることが求められている。本研究では、即興性を高める指導手順とポイントを、「主体的・対話的で深い学び」の視点から研究開発するものとした。

II 研究の視点

本研究では、生徒の発達段階に応じ、身の回りのこと及び社会や世界との関わりを重視した内容等、現実感のある目的や場面、状況を設定した上で、「話すこと」を中心とした言語活動を行う。教師は生徒が意欲や見通しをもって学習に取り組むことのできる「主体的な学び」を工夫した上で、「対話的な学び」を通して自己の発信する表現内容や英語による表現方法を広げさせ、現実にもその場面に遭遇した際に英語で発信のできる「深い学び」を得させることにより、生徒の即興で伝え合う力を育成することを目指す。指導方法を、「帯活動」、「文法指導」、「教科書本文の指導」の場面ごとに研究するとともに、指導方法の提案を行う。

帯活動

知識や技能を習得するために、帯活動を通してスパイラルな学習機会をもつことが大切であると考え、本研究では、CAN-DO リストに対応した単元の目標（単元に該当する指標形式の目標）を達成するために、単元を通して帯活動を活用する指導の研究を行った。またその活動を、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を基に実施し、指導内容や教材を開発した。

文法指導

文構造の解説や文型練習を中心とした指導ではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定して言語活動を行うことにより、理解・習得・活用を目指す指導方法を研究した。また、指導の流れ（導入－言語活動－まとめ）の中で、教師とALTが見本を見せたり、教師が生徒に対して効果的なインタラクションを行ったりすることで、実際のコミュニケーションのモデルを示したり、コミュニケーションの機会を与えたりする実践を行った。

教科書本文の指導

単に教科書本文の内容理解を行うのではなく、オーラル・インタラクションによる導入や、教科書本文を活用した言語活動を取り入れた授業デザインを研究した。また、生徒自身が教科書の本文を自分と関連付けて考えられるよう指導の工夫を研究した。

社会的背景

- 1 情報化やグローバル化等、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる中で、子供たちが他者と協働し課題を解決する力が必要とされる。
- 2 訪日外国人の増加、2020年オリンピック・パラリンピックの開催等、一層の実質的な外国語運用能力が必要とされる。
- 3 平成31年度から文部科学省が「話す」ことも含めた4技能を測る英語の学力調査を実施する。
- 4 2020年度から大学入試共通テスト(仮称)を実施する。4技能を評価する新しい形に変わる。

〈新学習指導要領改訂のポイント〉

- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視し、具体的な課題等を設定するなどして、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させ、言語活動の実質化を図る。
- 「話すこと」について〔やり取り〕、〔発表〕両領域で「既興性」が求められる。

〈生徒の実態〉

- 学年が上がるに従って英語の学習意欲に課題
- 4技能のうち、特に発信能力(話す、書く)に課題

〈指導の実態〉

- 「やり取り」、「既興性」を意識した言語活動が十分ではない。
- 東京都の英語科教員1,275人を対象としたアンケート調査において、「既興で話す力を高めていく指導について」60%の教員が「不安がある」または「とても不安がある」と回答

目指す生徒像

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、意欲的に学ぶことができる生徒（「主体的な学び」）
- ②他者との協働や対話等を通して、自分の考えを広げ深められる生徒（「対話的な学び」）
- ③自分の考えや思いなどを即興で発信する表現力がある生徒（「深い学び」）

研究主題：即興性を高める指導手順とポイント ～「主体的・対話的で深い学び」～

研究仮説

生徒にとって現実感のあるコミュニケーションの目的・場面・状況を設定した上で、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を視点とし、既習事項を繰り返し使わせる指導を充実させれば、即興で伝え合う力が身に付くであろう。

研究内容

現実感のあるコミュニケーションの目的・場面・状況の設定と表現活動を
学びの場面（帯活動・文法指導・教科書本文の指導）に応じて行う。

①主体的な学び

意欲や見通しをもって学習に取り組ませる。

- CAN-DOリストに対応した単元に該当する指標形式の目標を設定
- 学習を生徒自身の興味・関心や目標と関連付け、生徒の知的好奇心を喚起

②対話的な学び

外国語で伝え合う対話的な言語活動を設定する。

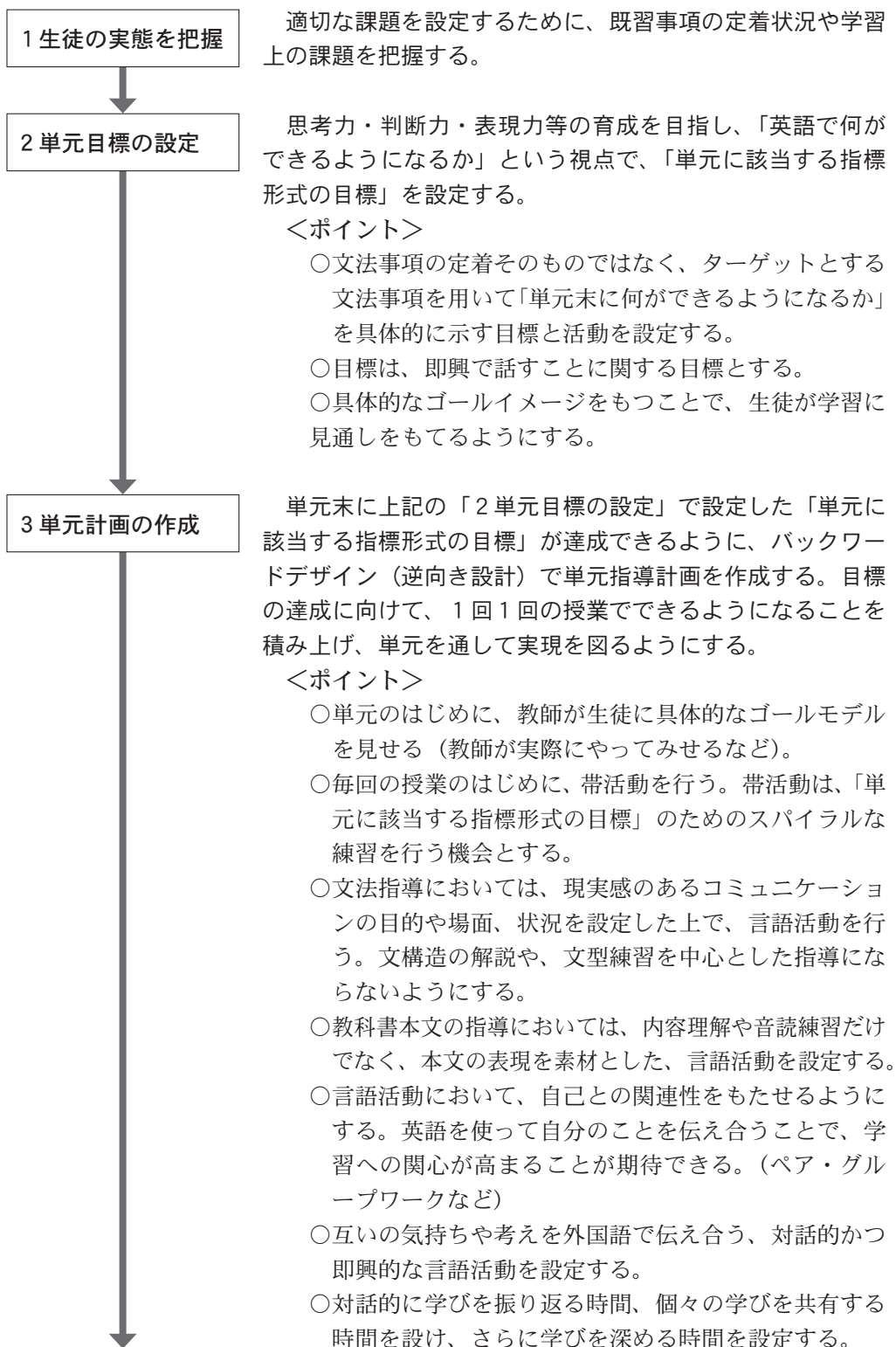
- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を設定
- 即興的なやり取りを行う言語活動を設定
- Sharing Time（個々の学びを共有する時間）を設定
- Reflection Time（対話的に学びを振り返る時間）を設定

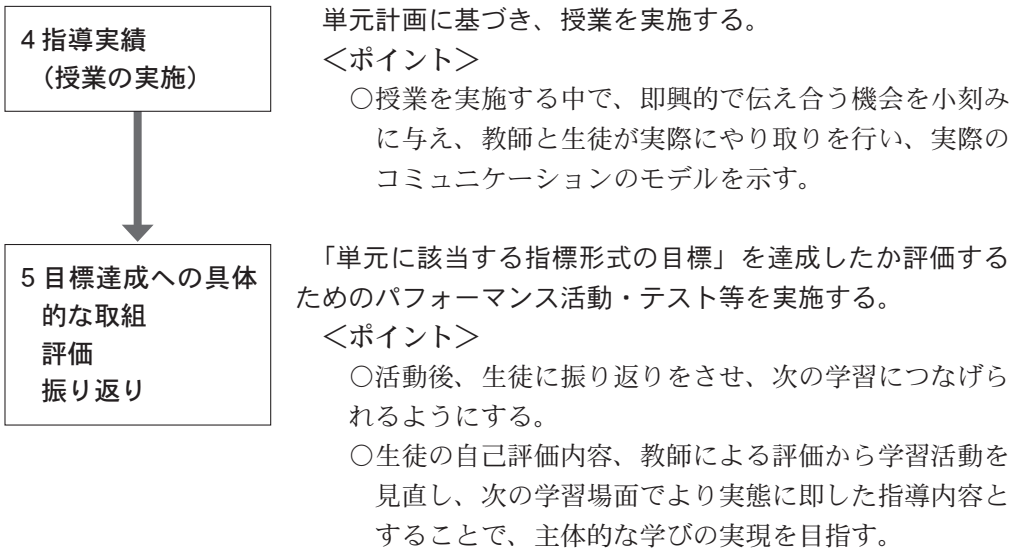
③深い学び

即興的なやり取りを行う言語活動を設定するとともに、活動を共有し振り返らせる場面を設定する。

Ⅲ 研究の内容 単元の指導手順とポイント

「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、生徒に即興で伝え合う力を付けさせるために、以下のような授業手順と実施のポイントをまとめた。





IV 研究の成果と課題

単元の最後に教師が生徒に「英語で何ができるようになるか」を伝え目標達成の図られる単元構成で授業を行うことで、生徒は学習の見通しをもち、帯活動等即興性を高めるための言語活動を意欲的に行うことができた。単元終了後の自己評価においても自己の学びを肯定的にとらえることのできた生徒が多く見られた。

指導の実践においては、具体的なコミュニケーションモデルを教師が示し、その場ですぐにそれを真似て実践練習をさせたことが有効だった。生徒には繰り返し表現させ、コミュニケーションの成功体験を実感させることで恐れることなくコミュニケーションに取り組もうとする姿勢が見られた。活動の後に学んだことを振り返る時間を設定したことが効果的だった。ペア・グループ活動といった対話から、自分の発表の内容を改善したり、表現の幅を広げたりすることができたと実感した生徒が見られた。また、話す活動を徹底して行うことで、書く力の伸長も見られた。単元後の定期テストでも、違いを恐れずに書こうとする姿勢が見られ、書く分量も多く、正答率も高かった。

明確で具体的なゴールを設定し、これを達成する指導を継続して行うためには、教師側のしっかりとした意識と綿密な準備が必要である。また、全体のバランスを考慮して授業構成していくことも大切である。教師と生徒との十分なインタラクションを授業の中に取り入れ、会話モデルの提示や文構造等のインプットを行うとともに、生徒同士、教師と生徒での十分なアウトプットの時間をとる必要がある。本研究により生徒の即興で伝え合う力という点においては生徒の流暢さが高まり、一定の成果があったと言えるが、正確性を追究していくことが必要である。生徒の発信する意欲を大切にしながら教師が意図的・計画的に生徒の間違いを直していくなど、今後即興性とともにも正確性を追究していく必要がある。

目的や場面、状況等に応じて 即興でやり取りするための指導の工夫

東京都教育庁指導部義務教育指導課 指導主事 早川 裕之

1 研究主題設定の理由

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、グローバル化は更に進展し、日常的に外国人とのコミュニケーションを図る機会が増加している。生徒が日常生活の中で外国人と出会う機会が増えることにより、今後ますます、実際に英語を用いて即興でやり取りする力が必要となる。学校教育においては、このような状況に対応し、「生徒の即興で話す力」を育成するための指導方法の工夫・改善が期待されている。

しかし現状において、「生徒の即興で話す力」については、「既習事項の活用」、「即興で話す力」、「即興で話す活動の経験不足」の3点が、「話すこと」の課題として挙げられている。(文部科学省「平成28年度 英語教育改善のための英語力調査報告書」)

新学習指導要領解説外国語編では、生徒の英語力において、「習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題」があることを踏まえ、対話的な言語活動を重視する観点から「話すこと」を「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の2領域として設定し、語彙、文法などの言語材料と言語活動とを効果的に関連付けて、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすることとし、目標を達成するための重要な条件として「即興で」を掲げている。

そこで本研究では、これらの背景と実態を踏まえ、目指す生徒像を「目的や場面、状況等に応じて既習事項を活用し、即興でやり取りすることのできる生徒」とし、研究主題を「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りするための指導の工夫」とした。

2 研究の視点

新学習指導要領解説外国語編では、『即興で伝え合う』とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かず相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。」としている。

本研究では、生徒の「即興でやり取りする力」を高めるために、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」、「学習意欲を高める課題」を「3本の柱」として設定した。「既習事項を活用させる活動」では、帯活動としてQ&A活動を実施し、生徒が話すための原稿を事前に準備して覚えたりせずとも、「即興でやり取りする言語活動」において十分にやり取りができるよう、即興でやり取りするために必要となる語彙や表現の定着を図った。「即興でやり取りする言語活動」では、教科書の本文と関連したトピック等について記述したメモを基に、習熟に応じて1分から3分程度 [やり取り] を行う Minutes

Talk と、生徒同士が写真や絵の様子を伝え合う Picture Describing を授業内で繰り返し実施し、不適切な間を置かずに関わり合いが即興でやり取りができるようになるための経験を、生徒が多く得られるよう工夫した。「学習意欲を高める課題」では、生徒が「即興でやり取りする言語活動」等の活動に意欲的に取り組めるよう、単元を通じて指導した「話すこと [やり取り]」の内容について、単元最後に設定したパフォーマンステストを実施するとともに、評価基準表を用いて教師と生徒が評価基準を共有することで、生徒が学習の見通しをもったり、学習を振り返ることで自己の課題に気付いたりする機会が得られるようにした。

これら「3本の柱」を有機的に関連付けて実施・設定することで、「即興でやり取りする言語活動」の効果を高め、生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を高めることを目指した。

3 研究方法

生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を育成するため、次のとおり研究を行った。

(1) 課題解決に迫る手立て（「3本の柱」の設定）

本研究においては、生徒の「話すこと」の力の育成に関しての課題を解決するため、新学習指導要領解説外国語編等を研究し、研究主題及び研究の視点である「3本の柱」を定めた。中心となるのは「即興でやり取りする言語活動」である。本研究では、生徒が「コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて既習事項を活用し即興でやり取りする」ことができるようになるためには「即興でやり取りする言語活動」を設定するだけでは不十分と考え、即興でやり取りする際に必要となる語彙や表現等の既習事項の定着を目指して「既習事項を活用させる活動」を、やり取りする際の目標を明確にすることで生徒が学習の見通しを立て、意欲的に言語活動に取り組めるようになることを目指して「学習意欲を高める課題」を設定した。

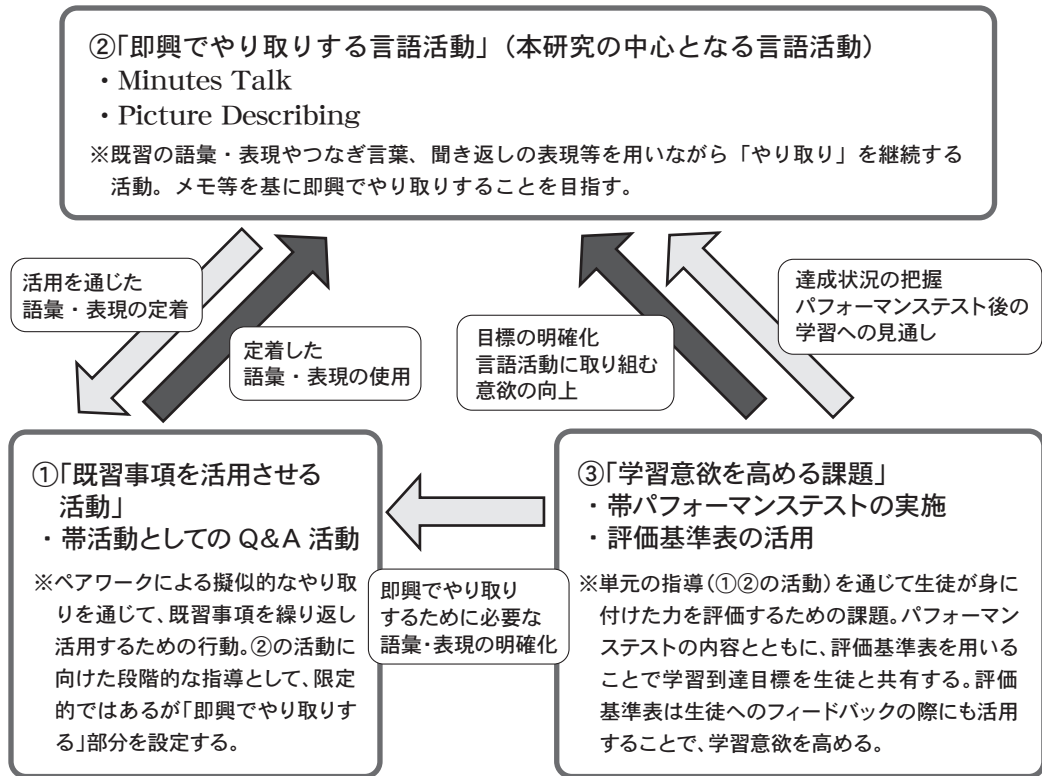
「3本の柱」の関係性及び各活動の内容は、次ページの【図】（「即興でやり取りする言語活動」と「既習事項を活用させる活動」、「学習意欲を高める課題」の関係性）のとおりである。

(2) 授業実践

「学習意欲を高める課題」を設定することで生徒の学習意欲を高め、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」を継続して指導すれば、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、既習事項を活用し即興でやり取りするための表現力が身に付くという研究仮説を検証するために、教育研究員の所属校において、本研究の「3本の柱」の具体的な取組内容である、帯活動としての Q&A 活動、Minutes Talk、Picture Describing を行った。また、生徒が身に付けた力を評価するため、パフォーマンステストを単元最後に行うものとし、生徒が意欲的に各活動に取り組めるよう、パフォーマンステストの評価基準を単元の冒頭に提示するとともに、生徒が単元を通じて継続的に評価基準を意識できるように授業を計画した。

【図】「即興でやり取りする言語活動」と「既習事項を活用させる活動」、「学習意欲を高める課題」の関係性

※ ← は実施するねらい、⇐ は還元される効果を示している。



(3) 授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

検証には、教育研究員による生徒の活動状況の観察に加え、「既習事項を活用できているか」、「即興で会話を継続できているか」等の観点に基づき、生徒が各活動の実施後に行った振り返りの内容を用いた。各活動における生徒の振り返りや、授業実践を通じて教育研究員が行った生徒の活動状況の見取りを通じて、生徒の変容等を考察し、研究の成果と課題をまとめた。

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

① 「既習事項を活用させる活動」における生徒の変容

帯活動としての Q&A 活動では、生徒の振り返りから、つなぎ言葉や聞き返しの表現を活用すること、既習事項の活用を図る過程において即興でやり取りをすること、間違いを恐れず会話を続けることなどの項目についても、「よくできる」「できる」の合計の割合が最終的に 8 割を超え、本活動が「即興でやり取りする言語活動」を支える役割を果たしていることが分かった。

② 「即興でやり取りする言語活動」における生徒の変容

Minutes Talk の実施後、「習った表現を使ってその場でやり取りできたか」、「つなぎ言葉や聞き返しの表現を使って会話を継続できたか」、「間違いを恐れず英語を

話すことができたか」、について生徒に振り返りをさせた。どの項目においても、「よくできた」「できた」の合計が8割を超えたことが分かった。また、発話量の変化についても、やり取りにおける総単語数とやり取りの回数が、初回の【84語・6回】から3回目の【134語・9回】となっているとおり、増加していることが明らかになった。

③「学習意欲を高める課題」における生徒の変容

パフォーマンステスト後の生徒の振り返りでは、次の学習に向けた意欲的な記述が半数を超え、今後の学習に対する意欲が向上していることが伺えた。評価基準表を活用したパフォーマンステストの実施は、「即興でやり取りする言語活動」に対する学習の見通しを生徒がもてるようにするとともに、フィードバックを通じて言語活動に取り組む学習意欲を高める役割を果たしていることが分かった。

(2) 研究の課題

本研究における授業実践を通じて、生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を高めることができた。一方で、「即興でやり取りする言語活動」で生徒が必要とする語彙や表現を、「既習事項を活用させる活動」で十分に指導できたかどうかについては課題が残った。なぜなら、Minutes Talk や Picture Describing においてどのようなトピック、イラスト・写真を提示したかによって、生徒が「即興でやり取りする」ことのできる内容に差が見られたからである。例えば Minutes Talk や Picture Describing において、「歴史上の有名な人物」を提示した場合よりも「身近な有名人」を提示した場合の方が、生徒が即興で話すことのできる内容が多かった。これは、「身近な有名人」については日常生活の中で慣れ親しんでいる語彙や表現で話すことができるが、「歴史上の有名な人物」については生徒があまり慣れ親しんでいない語彙や表現を用いなければ説明することができなかつたからだと考えられる。

今後は、「即興でやり取りする言語活動 (Minutes Talk、Picture Describing)」を実施する際に、そこで必要とされる語彙や表現に対する生徒の習熟度を把握し、不足すると思われる場合には「既習事項を活用させる活動 (帯活動としての Q&A 活動)」に立ち戻り、必要な語彙や表現を補うような指導を行っていく必要がある。また、「即興でやり取りする言語活動」をより効果的に実施するために、扱うトピックと、必要となる語彙や表現を事前に十分把握し、「既習事項を活用させる活動」に計画的に位置付けるなど、語彙や表現の提示の仕方についても、工夫していく必要がある。

“Seize the Day 2017 今を生きる！”

～個々の練習とセッションで1つに紡いだメッセージ～

都立小石川中等教育学校 指導教諭 井村 哲也

1. はじめに

NHKにSongsという番組がある。年末その番組の中で、今人気の欅坂46という女性アーティストグループのダンスの振付師であるTAKAHIROさんの話を偶然テレビで聞く機会があった。もともと筆者は英語劇の台本を書いたり演出をするようになって様々なパフォーマンスにアンテナを張っていたのでTAKAHIROさんの話は興味深かった。「振り付けは私が振付けるのではなくてメンバーの持っているものが引き出されるのが正解」という言葉には大いに共感できた。そう英語劇の指導も全くにそれと同じことが言えるからだ。

現任校の小石川中等教育学校は6年制の男女共学の中高一貫校である。巷では真面目な生徒ばかりで楽に英語劇を実践しているなどという話も聞こえてくるが、適性検査で入学してくる生徒は学力の習熟度に於いてもその他の面でも大きなばらつきがあり、教師は多様な対応を迫られる。英語劇の実践も生徒一人ひとりの良いところを最大限引き出せるように多大なエネルギーを注いだ。どの参加校もそうであろうが決して楽な取り組みなどないし、苦勞せずして人の心を打つ作品など到底できない。

2. 英語劇の実践

今回の英語劇は総合学習で英語劇を選択した男子5名、女子9名の計14名で取り組み始め、最終的にはボランティアで照明や音響を自主的に手伝ってくれた20名で劇を完成させた。1学期は大会の参加作品とは全く関係なく、今、注目を浴びている即興劇(improvisation)を活用して表現力を磨き、1学期後半は筆者の作品で検定教科書にも掲載された“Puppets”を2チームで競わせてお互いに見せ合い学び合いの機会を設けた。

いよいよ2学期は大会参加作品への取り組みがスタート。単純に計算しても週に1度の総合の時間で使えるのは10時間。参加生徒はほとんどが部活動に参加しており、放課後練習はできない。音響、照明は助けてもらえない。さらに都大会前は定期試験直前で練習はできない。何重苦だ。そこで考えたのがコスパである。いかに要領よく練習するかを考え計画を立てた。部活がない日に個人指導を行い、総合学習の時間に点を線で繋ぐやり方である。オープニングのダンスは部活でダンスをやっている生徒に振付を任せ、音響と照明はボランティアを募りすべて任せた。またメインの配役は生徒同士で決めさせ、一番セリフが多い生徒役のセリフ(教師と生徒の学園の物語)は誰が言っても辻褄が合うように台本を書いたので生徒同士でセリフの数や重要性を考えさせて決めさせた。

ここまで来れば私がやることは2つ。1つは5年前に優勝した先輩達の作品を見せてこのレベルを越えなさいということ。そして、本番直前に「ドラマは演技手と観客のコミュニケーションである。君たちが伝えたいメッセージを一生懸命伝えれば必ず伝わる。それが優勝より大切なことなのだ」と伝えること。

本番での一生懸命さは私にも伝わった。本番終了後、生徒たちは満足した顔で保護者が撮って下さった写真の中に収まった。もうこれで十分だと思った。本番直前の控え室で初めてみんなで円陣を組んだのには驚いた。優勝はもちろん頂けて嬉しいが、それ以上のものを頂いた気がする。今回の実践にあたって文京区の溪内、原田両先生、小石川の同僚には温かい応援を頂いた。感謝の気持ちで一杯だ。

英語を楽しむ姿勢を育む

北区立桐ヶ丘中学校 教諭 佐川 雅美

まず始めに、東京都中学校英語学芸大会を運営してくださっている関係者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。毎年、区の連合学芸会を突破した後の、生徒ならびに教員の大きな目標となっている。

本校は北区の連合学芸会の英語スピーチの部において、8年連続で最優秀賞をいただいている。英語科のモットーは「英語好きな生徒をつくる」である。生徒が主体的に活動する英語授業を目指し、日々より「楽しい」授業を計画・実施している。

この度は東京都の英語学芸大会で優勝した酒井さんは、本校の2年生である。その素晴らしい結果に、本人が一番驚いていたようである。率直に申し上げて、一緒に準備をしてきた私たちも非常に驚いた。

今回酒井さんがスピーチコンテストに出場することになり、色々なテーマを提案した。彼女のスピーチのテーマは海外経験のない人には共感しづらいエピソードかと思い、他のテーマで書くことをすすめたのだが、本人はどうしても海外生活の話シェアしたかったようである。「これを聞いてほしい！」という強い想いが、大勢の人に伝えるメッセージとしてふさわしい内容になるよう、話し合いを重ねた。

酒井さんは小学校低学年の時にアメリカに住んでいた帰国子女である。帰国子女というと、活動的で自分に自信があるイメージが強い。しかし酒井さんは自分が英語ができるということで注目されたくないと考えているし、素晴らしい賞をいただいた今でも、完全に受け入れているとは言いがたい。英語の発音を褒められて嬉しい気持ちと、特別扱いされたくないという気持ちが両方あるのである。そんな彼女なので、スピーチ大会に出場すること自体が大きな決断だったと思う。練習でも、最後まで「大きい声で!」「もっと自信を持って!」と声をかけていた。スピーチが仕上がってくると、体育館で実際に演壇とマイクを使って、本番さながらの練習を重ねた。

本番では、今までは入れていなかったジェスチャーを新たに足していたので感心した。本人と、聴衆にはスピーチの内容に集中していただきたいと話し、ジェスチャーは最小限にとどめていた。当日、他の学校の参加者たちが熱いジェスチャーをまじえて話しているのを見て、「私ももっとたくさんジェスチャーをしてみよう!」と思って、ぶっつけ本番で挑戦してみたという。そのような肝のすわったところや、本番直前まで最高の演技を目指して試行錯誤する姿勢は、今回新たに知った彼女の一面である。英語学芸大会出場を通して、酒井さんはすごく成長した。帰国子女として注目されることを少しずつ受け入れ、それが自信に変わってきたのである。このような素晴らしい体験をさせていただき、改めて運営に携わる方々に感謝を申し上げる。

都中英研・研究部公開授業を終えて

八王子市立第六中学校 主任教諭 太田 裕也

はじめに

平成 29 年 2 月 17 日（金）に東京都中英研研究部の公開授業をさせて頂いた。対象学年は 2 年生で、少人数クラスの 22 名で授業を行った。まず始めに、指導助言を頂いた神奈川大学の久保野雅史先生、遠い所をお越しいただいた先生方、また運営して下さった先生方に感謝を申し上げたい。

研究の概要と授業について

「生徒の語いサイズを広げる指導の工夫」を研究テーマとして、教科書本文の新語を復習する場面で語いを広げる指導について研究した。具体的にはフラッシュカードを使い、新語の同意語・反意語、関連語やコロケーションを広げるものだ。研究部が発行している「語いと英語教育」において、語いを広げたリストが記載されている。研究部のホームページからもダウンロードできるので、語い指導の参考にして頂ければ幸いである。公開授業において、広げた語いは以下の通りである。

- ・ remember の反意語
- ・ be interested in のコロケーション
- ・ influence の口頭英作文



また帯活動において 1 分間チャット・リポートの後には、偶発的語い学習として教科書本文の内容に関わるトピックで「じゃれマガ」を用い、リーディング活動を行った。今回のトピックは映画についてであったが、指導助言では久保野先生より英字新聞を活用し、語いを広げる例についても紹介して頂いた。授業の展開では、教科書本文の会話にその続きを自由に加えさせるリテリングを行い、生徒が発表した。発表の中には、好きな映画について会話を広げるものや、海外に影響を与える他の日本文化について紹介するものがあった。教科書本文には載っていない復習の段階で広げた語いを使っている生徒もあり、研究の成果を感じた。

おわりに

多くの方々に授業を見て頂き、良い経験となった。遠くは石川県からお越しになった先生もいらっしゃる、大変ありがたかった。また、研究協議で意見をたくさん頂き、毎日の授業に活かすことができている。最後に、2 月の寒い体育館の中で暖房もないのに、授業を頑張ってくれた生徒たちに本当に感謝している。

教師道場での取り組みについて

江東区立深川第五中学校 教諭 松澤 みずほ

1 教師道場の概要

教師道場とは、部員がリーダーや教授の指導のもと授業研究、協議会を通して授業の腕を磨く場である。より良い授業づくりを志す中学校の教員、高い指導力を持ち部員に指導・助言をしてくださるリーダーと呼ばれる先生、リーダーと部員をまとめ指南してくださる教授で“班”を作り、2年間の研修を行う。

毎月1回の授業研究では、授業者が作成した学習指導案を部員とリーダーで検討し、助言し合う。そこで得た助言をもとに学習指導案を修正し、授業研究に臨む。授業後の協議会では「授業力の6要素」や「主体的・対話的で深い学び」といった視点で、授業について分析する。協議を終えた後は、授業研究で行った指導案にさらに改善を加え、再度指導案を作成する。

部員の授業研究が始まる前には、リーダーの模範授業を見せていただく。そこで自分自身の授業の課題を見つけ、2年間で目指したい授業の指針ができる。授業研究の他に、異校種の教員と教材研究や指導方法の協議を行う夏季集中協議という日もある。さらに、教師道場2年目にはリーダー演習というものが始まる。部員が授業観察後の協議会の司会・進行を行い、授業者に対して指導・助言する演習である。また、研修の成果の発表として、公開授業がある。教師道場の関係者以外の先生方に授業を見ていただき、授業について教師道場での学びを実践報告する。これらすべてが教師道場の学びの場となる。

2 教師道場の取り組み

第1期での授業研究では、リーダーによる模擬授業に始まり、班員の初めての授業研究が行われた。この第1期ではお互いの授業を見て、各自の指導技術や学習指導案の書き方について課題を話し合い、目指したい授業づくりの方向性について協議した。授業を考えると、生徒に何ができるようになってほしいのか、学習指導要領を理解し指導内容を把握できているか、教科書を使って中学3年間で育てたい生徒像は何か、リーダーの授業と部員の授業のどこが違うのか、学び合いや教え合いを効果的に深めるためにはどうしたらよいかという視点で授業について話し合った。

その中で班の研究テーマを「単元のゴールを見据えた授業づくり」に定めた。単元における授業のつながり、年間指導計画の中での単元ごとのつながり、中学校3年間におけるつながりを見据えた指導の連続性が大切だと考えた。また、育てたい生徒像を考えると、技能を高めながら、社会や他者との関わりの中で自己を見つめ、深めることができるような授業をつくりたいと、英語教師としての指導観を持つことができるようになった。

第2期では、各部員が単元の最終ゴールを意識した単元計画を立て、授業研究を行った。単元のゴールをはじめに設定し、単元の指導に一貫性を持たせることで指導内容に整合性がとられてきた。時には単元の最終的な行動目標を教科書の教材から離れて独自に設定するなどの教材開発にも取り組んだ。また、協議会を重ねるごとに授業を多面的に考察する力がついてきたことを実感した。

第2期の後半から始まったリーダー演習ではこの考察力が大いに役立った。研究協議会を実りあるものにするための協議会のテーマの設定の仕方、指導講評のやり方などを実践的に学ぶことができた。

第3期では、班のテーマを、「より能動的・協働的な学習を促すフィードバックの研修」とした。学習者の間違いに対するフィードバックや、英語に苦手意識を感じている生徒への声かけや支援などについて話し合った。フィードバックの様々な手法、効果的なフィードバックのタイミング、フィードバックの形態（教員と学習者間、学習者同士）を活用していきたい。

3 授業力向上における成果

一つ目は、単元の「指導技術（授業展開）」の向上である。講義の形式になりやすい教科書の本文をどのように扱うかが課題だった。単元のゴールから逆算し、本文を使って学習者に何を自己表現させるかということを1時間の目標に置くことで、Oral Introduction、内容理解のための読解、新出単語の導入、文法説明や音読などの活動を関連づけることができた。また、ペアで題材に関係するブレインストーミングを積極的に取り入れたり、学習形態（ペア、全体→個→全体）を工夫することで、生徒の主体的な学習態度を育成することができた。授業の中で、学び合いや教え合いを通して、「英語が分かった」「英語で伝わった」という場面を増やすことができた。

第二に「教材解釈・教材開発」の力を深めることができた。授業研究では、教材を精選したり、積極的にオーセンティックなものに変更したりした。また、生徒の実態に応じて身近なテーマを選び、学びの必然性がある教材を使用することができるようになった。

第三に『『指導と評価の計画』の作成・改善』を基に授業づくりができるようになったことだ。単元目標を各観点から具体化し、望ましい生徒の変容のビジョンを授業者が明確に持つことで、適切な場面で評価をすることができるようになった。形成的評価や総括的評価といった様々な評価方法や、生徒による授業の振り返りなどを取り入れた。振り返りは、学習者自身の学びが実感でき、できたことだけではなく知りたかった表現などを書かせることも有効な方法である。今後も、指導と評価の一体化に向けて、単元の指導計画と評価計画を作成して授業を実施し、生徒が学ぶ意味をしっかりと捉えることができるように取り組んでいきたい。

4 道場での研修を終えて

2年間の研修期間を通して、指導案検討、授業研究、研究協議会での議論は私の教師人生の大きな土台を築くことができた。協議会で話し合ったやり方が、実際に授業で効果的か、繰り返し継続的に授業研究で検証できた。また、研修の中盤、東京都の英語教員海外派遣研修に参加した。教師道場で学んだことを派遣先で実践したり、逆に海外で学んだ理論を道場の授業研究で試行した。

今後の目標は、変化の多い時代を生きる学習者が、社会に出たときに求められる資質能力を育てる授業づくりをすることである。自分の考えや意見を表現するために、それぞれの授業で英語を使う必然性のある言語活動を設定していく。学び合いや教え合い、よい教材を通して表現したい自分の考えを育てる授業づくりをしていく。

また、研修で学んだ指導法や指導技術を共有し、広めていきたい。勤務校では少人数学級での指導を行っている。授業を見てもらったり議論を交わす中でよりよい授業づくりについて研鑽を積んでいきたい。

第41回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 長野大会（報告）
グローバル社会を生きる日本人に求められるコミュニケーション能力の育成
～CAN-DOリストを活用した指導と評価の工夫～

八王子市立横川中学校 校長 佐藤 ひろみ

以下は平成29年11月17日（金）に実施された第41回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 長野大会（第3分科会）に参加し、それに基づいた報告である。

1 主題設定の理由（概要）

◇第3分科会テーマ：他領域と関連付けた「読むこと」の授業改善

岡谷市立岡谷北部中学校（第3分科会）においては、生徒の課題を①文法問題の答えや和訳などに関心が強く、テストのみを意識した受け身の姿勢に傾きがちであること、②まとまりのある長文を読むことになると、その量の多さや、わからない単語を前に、読み進める意欲を失ってしまう姿が多く見られること、③学力テストの結果から見ても、生徒は複数の文を関連付けて読み取ったり書き手の意向を推測したりする力が不足していること、と捉えた。そしてその要因を以下の3点と考えた。

- ◇生徒への配慮から文法を教えることや日本語に訳すことを中心とした授業の進め方やその評価の方法
- ◇生徒の基本的な言語材料についての知識・理解が不十分であることによる抵抗感
- ◇生徒が長文を読むための目的や課題意識を十分持っていないこと。また、テキストタイプに応じた読み方についての知識・技能が十分に身に付いていないこと

そこで本研究では、課題の解決に向け、生徒が「与えられたテキストを読んで、意味や文構造を理解すればよい」という受け身の取り組みではなく、自分の願いや課題を持ちながら主体的にテキストを読むことで、その内容理解とともに、読んだことをもとに自分の思いや考えを持ち、自己表現につなげていくことができるようになることを目指し上記のテーマを設定した。

2 研究の概要 第3分科会 授業改善の視点

岡谷市立岡谷北部中学校では、以下の視点で改善に向けて取り組んだ。

1. 小中高の接続

小学校と連携して、ミーティングや相互の授業参観をすることで、生徒が英語の学習の抵抗感をなくすようにした。特に、音声面を中心にした英語表現への慣れ親しみを大切にし、読むこと・書くことの活動につなげ4技能の総合的な育成を図るための改善を行った。

2. 複数の技能を統合する言語活動の充実と高度化

主体的に読む生徒の育成のため以下を授業の基本とした。

- ①「読む」必要感を持てる単元構成や場面設定をする。
- ②CAN-DO リストに照らし Lesson Goal を明確にし、読むことを通して何ができるかを生徒と教師で共有する。
- ③英文を読む段階において、テキストタイプに応じた読み方や読む観点を明確にし、目的を持った読解をする。
- ④読み取った内容について自分の考えや気持ちを付け加え、Output につなげていく活動を設定する。

3. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの工夫

「ペアやグループ学習」に重点を置いた授業形態とし、「本時のねらい」に基づき、生徒相互が「関わりあって学ぶ場」を設定することで、「人の考えや疑問を知る」機会を持たせ、自分の言葉で学習を「振り返る時間」を確保するように授業を構成した。

4. 日常的に英語で授業を行うための工夫

ALT と協力し、帯活動として既習事項を活用した英問英答活動及びペア・グループ活動による会話（5分程度）を実施する。教科担任間での情報共有を図り、Small Step で少しずつ英語を使う量を増やすとともに、原則同じ流れで授業を実施する。

3 今後に向けて（第3分科会に参加して）

以上のような視点に立ち、授業者は1単元における指導と評価を、① Lesson Goal（その単元でできるようになること）「ウルルについてのコラムを読んで、エッセイ“My Uluru around Okaya”を書き、ALTに紹介しよう」を生徒と共有した上で、② Today’s Goal（本時のゴール）「アナン族の人々にとって、ウルルはどんな場所なのか読み取ろう」、と③ Today’s Points（本時のゴールを達成するためのポイント）「アナン族の視点で考える・段落に注目する・読み取ったことをコンセプトマップでまとめていく」を設定した授業を組み立てていた。

こうした授業の工夫改善に向けた取り組みを通して生徒たちの中に、「読む」ことの「目的」を意識し、書き手が伝えたい事を読み取ろうとする姿勢、それに対して自分はどうに考えるのか、またそれはなぜなのかを考える姿が見られた。さらに、Today’s Points（本時のゴールを達成するためのポイント）を明確にすることは、教師が生徒を評価する観点であり、生徒が本時を振り返るための観点にもなっていた。

第3分科会における授業では、設定した目標の達成に向け、単元の中で4技能を有機的に関連付けながら言語活動を行うために、ALTの活用、本文の記述を根拠にしたコンセプトマップ作成、ペア・グループ活動等様々な工夫をすることで、4技能の総合的な育成、生徒たちの深い学びにつなげていく授業を公開していただいた。

生徒のコミュニケーション能力の育成のためにCAN-DOリストに基づき、指導内容と指導の道筋を明確にし、生徒と教師が共にゴールを共有すること、教師が適切な評価をすることで、生徒が学んだ事や課題を実感としてとらえられるように授業を改善していくことが、「主体的で、深い学び」につながるのではないだろうか。

総務部報告

(総務部長 刀根 武史)

これまで作成してきました「地区幹事および地区部長名簿」は規約に則り、本年度は地区幹事の名簿とし、6月中に作成しました。また、関ブロや全英連の大会案内については、各区市町村教育委員会にも配布をお願いしながら、各校にお届けしました。

主な年間事業は右記の通りです。

①の定期総会は5月11日(木)に港区立御成門中学校を会場に実施しました。総務部では都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成しました。

総会後の記念講演会では、東京外国語大学大学院の投野由紀夫教授から「これからの中学校英語教育～CAN-DOリスト活用 of 推進～」という演題でお話いただきました。

②の全英連中学校部会は、全英連から求められた昨年度の活動状況と本年度の役員名簿を作成し、5月末までに提出しました。

③の関ブロ第1回理事研修会は、下諏訪総合文化センターにて6月30日(金)に開催され、11月の長野大会に向けた準備が行われました。東京都からは総務部長が事務局長として参加しました。

④の地区幹事会は8月25日(金)に港区立御成門中学校を会場に開催しました。この地区幹事会は、都中英研各部からの報告や各地区の活動状況についての情報交換など事務連絡、顔合わせだけでなく、毎年英語教育の今日的課題をテーマに講師の先生を招聘しています。今年度は、教育庁指導部指導企画課の関谷さやか指導主事か

ら「Welcome to Tokyoを活用した授業実践について」をテーマに具体的なご指導をいただきました。

⑤の関ブロ第2回理事研修会は、下諏訪総合文化センターにて11月16日(木)に開催されました。東京都からは都中英研会長と総務部長の2人が参加しました。この会において都中英研から平成31年度開催の第43回東京大会の案を示しました。

⑥の関ブロ長野大会は11月17日(金)に下諏訪総合文化センターを会場に全体会を開催しました。その後、5つの分科会に分かれて研究協議が行われました。

東京都は第3分科会で足立区立江北桜中学校の伊藤智子主任教諭が「読んだことを基に自分の考えを表現する英語科の指導の工夫～パラグラフ構成を手掛かりにして～」を主題に県外提案をしました。

さらに、指導助言者として東京都教職員研修センターの中谷愛統括指導主事にお話をいただきました。お二人ともありがとうございました。

⑦の英語学芸大会は12月3日(日)に豊島区立千登世橋中学校の体育館を会場に実施されましたが、総務部でも受付等のお手伝いをしました。各地区を代表する生徒のSpeechやPlayは大変レベルの高いものでした。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 5月 全英連中学校部会
- ③ 6月 関ブロ第1回理事研修会
- ④ 8月 地区幹事会
- ⑤ 11月 関ブロ第2回理事研修会
- ⑥ 11月 関ブロ長野大会
- ⑦ 12月 英語学芸大会(都大会)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第33回授業力アップ研修会

日時：平成29年10月24日(火)

会場：国分寺市立第三中学校

テーマ：4技能を総合的かつ統合的に扱う1時間の指導展開

授業者：亀田 洋斉 教諭

講師：重松 靖 校長

(国分寺市立第二中学校)

参加者：58名

亀田教諭の授業は、生徒主体の活動を中心に、非常にテンポがよかった。オーラルイントロダクションでは、教員と生徒の活発なやりとりから、1年生のときから人間関係がいることが感じられた。

本時は、キング牧師の公民権運動のきっかけとなったローザ・パークスの逮捕が題材であった。Retelling をメインの活動とし、それにつなげるための音読練習の工夫が見られた。また、「この出来事についてどのように思うか」を発表させることで、生徒が自分の意見を英語で表現していた。重松先生は、具体的に授業改善のポイントを示してくださった。特に、英語が得意でない生徒のWriting指導について、①簡単な語句や文を用いて段階的に練習する。②日頃から、自分の考えや気持ちを表現する活動を繰り返し行う。③メールなど、実際のコミュニケーションの場面で相手に伝える活動を行うことで、生徒の意欲を高めながら書く機会を増やす。というヒントをくださり、たいへん参考になった。

2. 第70回 東京都中学校英語学芸大会

日時：平成29年12月3日(日)

会場：豊島区立千登世橋中学校

審査員：Ms. Kimiko Nakamura

(世田谷区立梅ヶ丘中学校前校長)

Mr. Ashley Davies

(英語検定協会)

Mr. Kansas Mendelson

(ALT)

結果：Speakingの部 (参加14校)

1位 Sana Sakai

(北区立桐ヶ丘中学校)

2位 Iroha Mizuuchi

(世田谷区立奥沢中学校)

特別賞 Hanako Yamada

(渋谷区立松濤中学校)

Playの部 (参加11校)

1位 都立小石川中等教育学校

Seize the Day 2017

2位 東京学芸大学附属小金井中学校

BUSU

3位 千代田区立九段中等教育学校

A Christmas Carol

特別賞 足立区立千寿桜堤中学校

Toshishun

英語学芸大会も第70回を迎え、ますます充実した大会になった。スピーキングでは、単に英語で発表するだけでなく、聞き手の心にメッセージが伝わってきた。

また、プレイでは、登場人物になりきってセリフをしゃべり演技している生徒が多かった。指導された先生方の熱意が感じられた。

今年度も、会場校の豊島区立千登世橋中学校の方々、都中英研各部の先生方のお陰で開催することができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

調査部報告

(調査部長 五十嵐 浩子)

1 新コミュニケーションテスト報告

平成 29 年度中英研調査部の新コミュニケーションテストの実施にあたり、多くの学校にご参加いただいた。また、今年度も研究部員の所属校から多数の参加申込みをいただいたことも大変ありがたいことであった。担当副会長としてまずもって御礼申し上げます。

29 年度の実施状況は以下のとおりである。

第 1 学年 1,657 人

第 2 学年 1,894 人

第 3 学年 1,973 人

総 計 5,524 人(28 年度は 7,278 人)

人数の減少は、自治体による学力調査の実施や教材費に計上することそのものの課題等もあるため、致し方ないことであり、調査部として魅力ある問題づくりを進めなければならない。

【概要】

各学年の領域別結果は以下のようになっている。

<第 1 学年>

第 1 学年は、「聞くこと」の領域に絞り、30 点満点のテストである。以下は 4 年間の経年変化である。

29 年度	28 年度	27 年度	26 年度
24.8	24.5	23.9	24.0

新教育課程への移行を見据えて、1 学年の調査内容を修正する時期に来ている。しかし、部員の負担をこれ以上増やすことは困難であるため、2、3 学年の調査問題作成に力点を置き、次年度の問題改訂は見送る予定である。

<第 2 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	24.4	15.4	19.4	16.4
達成率%	81.3	77.0	64.6	82.0

<第 3 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	20.8	16.2	16.3	13.5
達成率%	69.2	80.9	54.5	67.3

「書くこと」の達成率が低い傾向は変わっていない。2つの大問があり、与えられた語句を使って2通り以上の答えがある英作文と、与えられたテーマについて3文で答える自由英作文で構成している。

自由英作文では、第2学年は留学先での自己紹介、第3学年は「日本滞在中におすすめる場所」というテーマであった。第2学年では、場面設定のイラストに引きずられ、自己表現の幅を狭める結果となった。今後は、プレテスト結果を生かすとともに、イラストの吟味も十分に行う。

2 夏期ワークショップ

研究部等の実践を参考に 25 年度から開始した調査部夏期ワークショップは、5 回目になった。今年度も千代田区立九段中等教育学校を会場に実施することができた。

このワークショップは、テストづくりを知りたい、参加したいという意欲はあっても、期末考査で作成した問題持参を条件としているためハードルが高い。しかしながら、初回から毎回参加している方、調査部員や参加者とのグループ協議や講師からの助言を得て、指導と評価の一体化に取り組む方など潜在的なニーズの高さもある。

今回は、玉川大学の工藤洋路准教授にお願いして、「読むこと」のテストづくり(2回目)に取り組んだ。『何のためにこのreading 問題があるのか』を設定して、問題を改善する時間をとり、オーセンティックなテストに改善できるのか、調査部員のアドバイスのもと活発な意見が交わされた。最後に工藤先生から具体的な助言をいただき、本多敏幸先生(九段中等教育学校指導教諭)には、ご自分のテストをご披露いただいた。

3 30 年度新コミュニケーションテスト ご案内

参加費は、第1学年 200 円、第2、3 学年 280 円で、据え置く予定である。ぜひ、年度当初の予算計上をお願いしたい。

研究部報告

(研究部長 伊地知 義信)

1 研究主題

今年度の研究主題は、昨年度からの継続で、「生徒の語りサイズを広げる指導の工夫(4)」とした。具体的には、教科書の英文を使って英文レベルで語りサイズを広げる研究を行った。パフォーマンステストのトピック毎に表現をリスト化し、その英文がどのような機能を持っているかを整理していった。パフォーマンステストのトピックは東京都のパフォーマンステストの冊子を基にまとめた。「自己紹介」「他者紹介」「道案内」「電話での応答」などである。

今後の課題として、機能別の分類の再検討を行うこと、パフォーマンステストに向けた語り表現の指導法を具体的に検討すること。他の場面における語り・表現も分析することなどを考えていく。

2 第15回 研究部ワークショップ

今年度も以下の3回を実施した。今年も多くの方に参加していただき、合計175であった。

第1回 8月3日(木)

千代田区立九段中等教育学校にて

- ①「辞書指導(中1～中3)」
壽原 友理子
(都立両国高等学校附属中学校)
- ②「帯活動から繋げるパフォーマンステスト実践例」
藤野 康明
(多摩市立多摩中学校)
- ③「3年間の語り指導」
水嶋 諒

(江東区立深川第四中学校)

第2回 8月10日(木)

豊島区立池袋中学校にて

- ①「読むことから語り指導を考える
中2～中3」
太田 裕也
(八王子市立第六中学校)
- ②「1時間の授業の指導手順を考える
(導入～音読、復習まで)(1年)」
溪内 明
(文京区立第八中学校)
- ③「英語で行うコミュニケーション型授業
作り(1・2年)」
関口 智
(江戸川区立清新第一中学校)

第3回 8月22日(火)

品川区立荏原第六中学校にて

- ①「音、リズム、ジェスチャーを使った
語り、音読指導(1年)」
佐藤 優
(多摩市立鶴牧中学校)
- ②「教科書を使った語り指導・辞書指導
(2・3年)」
上尾 栄美子
(足立区立第五中学校)
- ③「【中1ギャップ解消】を目指す教科
書を開く前のリタラシー指導」
岡崎 伸一
(品川区立荏原第六中学校)

3 研究部公開授業・研究発表会

2月23日(金)江戸川区立清新第一中学校にて、同校の関口 智指導教諭が中学二年の授業を公開した。研究発表は太田裕也部員が行った。指導講師は文教大学教授の阿野 幸一先生をお迎えして、講演をしていただいた。

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクト・チーム部長 齊藤 節子)

新学習指導要領完全実施の準備として各学校では、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達度の目標、また指導と評価の改善の活用として「CAN-DO リスト」の作成へ動き出している。プロジェクトチーム部では、部員が各自の学校の実態に応じた CAN-DO リストを作成し、研究を進めた。さらに『グローバル化に対応すべきこれからの外国語教育』～ CAN-DO リストの活用～をテーマとして2回の研修会を開催した。

1 回目の研修会では、東京家政大学 教授太田洋先生より約2時間、研究テーマに沿った貴重な講義をしていただいた。夏季休業中にも関わらず、50 名以上が参加した。2 回目は、部員が CAN-DO リストを使っでの研究授業を行った。講師の本多敏幸先生より授業改善につながるヒントを話していただいた。1 回目、2 回目とも沢山の収穫があった研修会となった。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成 29 年 8 月 9 日 (水)

会 場：清瀬市生涯学習センター

講 師：太田 洋 先生

東京家政大学 教授

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成 29 年 11 月 21 日 (火)

会 場：中野区立第八中学校

授業者：飯沼 美千代 教諭

講 師：本多 敏幸 先生

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度、計4回の部会を開催し、「都中英研だより」や「中英研会報」の編集企画会議、校正、発行作業等を行ってきた。また、第3回目の部会では、部員による授業公開と意見交換を行い、部員相互の自己研鑽にも努めた。

具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第71号

(平成 29 年 10 月 23 日発行)

発行時期を10月に変更し、会長あいさつ、夏季休業中に行われた、東京都中学校英語教育研究会地区幹事会の報告と教育庁指導部指導企画課指導主事の関谷さやか先生を講師にお招きして行われた講演会、「Welcome to Tokyo を活用した授業実践について」の要旨、中英研各部の研修会報告等を掲載した。

○「平成 29 年度 中英研会報」第76号

(平成 30 年 3 月 8 日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「移行期間が始まります」、「英語は基本的に英語で教えることの意味」、「平成 29 年度東京都教育委員会の取組み」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、英語学芸大会報告、教育研究員、研究開発委員会報告、東京教師道場報告、各研究大会報告、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

第57回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

川崎市大会報告

「主体的な学びを通して、積極的にコミュニケーションが図れる生徒の育成」

開催日：平成29年10月14日（金）

会場：川崎市高津市民館

副会長 遠藤 哲也

本連絡協議会は、昭和36年に「英語指導の先進的な実践について相互に学び合い自都市の英語教育に役立てる」ことを目的に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足した。その後、政令指定都市の増加に伴い、現在は東京都及び政令指定都市の21自治体により構成されている。第57回大会では、15都市から各代表が参加した。

1 開会式

大会実行委員長より、3月に公示された新学習指導要領を受け、小学校の英語教育と中学校英語の連携における課題、中学校英語教育の変革、高等学校への接続等、様々な課題について言及があった。

2 情報交換

昨年度の第56回大会に引き続き、小中高の一層の連携を深めるための本協議会の役割の再構築について協議を行った。特に、事前アンケートを実施した「本会の名称」については、参加した全地区から意見を出し合った。このことについて東京都からは、「小学校との円滑な接続を図っていく必要性を考えると前向きに検討すべきである。ただし、運営面等の詳細な部分については、検討が必要である。まずは、小学校からの情報提供をいただきながらスケジュールを明確にしてから進めるのが重要と考える。」と提言した。最終的なまとめとして、「本連絡協議会への小学校からの参加は歓迎するが、名称は変更しない。」とい

うことが司会者から提案され、参加者からの承認を受けた。

3 研究協議（実践報告等）

川崎市立久地小学校 齋藤宗則教諭による「外国語活動における絵本を活用した授業の実践」、川崎市立菅生中学校 大林 篤生教諭による「表現力を高める指導のくふうー第二言語習得理論とCLILで育てる」の報告があった。齋藤教諭は、参加者を児童に見立て、英語による絵本の読み聞かせを実践した。また、大林教諭は、CLIL(Content and Language Integrated Learning)の手法を取入れた授業改善について、所属校での実践を紹介した。

続いて、川崎市総合教育センター 鬼頭洋司指導主事による「川崎市の英語教育取組状況」について報告があった。川崎市は、平成27年度より「第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」に基づき、「積極的に外国人と英語でコミュニケーションする児童・生徒の育成」を目標として英語教育推進事業を位置づけ、ALTの適正配置、英語教育推進リーダーの養成、外国語（英語）教育指導力向上研修の実施等、英語教育改革を推進している、との報告があった。

4 講演

演題：「中学校の新教育課程が目指すもの～学習指導要領改訂の趣旨～」

講師：平木 裕 氏

（文部科学省初等中等教育局 視学官）

学習指導要領改訂に伴い、小学校では、平成32年度、中学校では33年度より新教育課程が全面実施される。「育成を目指す資質・能力」「カリキュラム・マネジメント」「学校段階間の接続」「主体的・対話的で深い学び」「学習評価」等、全面実施年までの移行期間中に中学校の英語教員が理解や準備しておかなければいけないことについてお話をいただいた。

5 閉会式

次期開催都市（名古屋市）代表挨拶において、今回は平成30年10月12日（金）名古屋国際センターにて開催する、との報告があった。

**第67回 全国英語教育研究団体
連合会総会**

全国英語教育研究大会 新潟大会
「新潟から世界へ！新潟から未来へ！」

全英連中学部会長 惣田 修一
(練馬区立大泉中学校)

1 大会の主題等

平成29年11月22日(金)・23日(土)の2日間、新潟県において第67回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「新潟から世界へ！新潟から未来へ！」～交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進～をテーマに、グローバルマインドをもつ自律した学習者を育成する英語教育の在り方を示す。

2 総会・記念講演

(1) 期 日：11月22日(水)

会 場：りゅーとぴあ

新潟市民芸術文化会館

全英連会長 板倉和則校長(都立田柄高校)、大会実行委員長 小野島恵次校長(新潟県高等学校)の挨拶に引き続き、会務報告等滞りなく行われた。

(2) 記念講演

講 師：太田 光春 氏

(名古屋外国語大学教授)

「コミュニケーション能力の育成を

目指して」

～自律した学習者を育てる～

3 授業発表

(1) 小学校授業実演 (45分)

実演者：村上 大樹 教諭

(新潟市立上所小学校5年生)

助言者：金森強教授 (文教大学)

＜内容＞留学生から新潟の美味しいものを知りたいというリクエストから学習が始まる。主菜、副菜、デザートของกลุ่มに分かれ、それぞれが新潟グルメを調べ、何をどう伝えるかを考え発表させ、想定問答を作成する。

(2) 中学校授業実演 (50分)

実演者：中川 久幸 教諭

(新潟市立小針中学校2年生)

助言者：和泉伸一教授 (上智大学)

＜内容＞新潟大学の留学生からの依頼

「中学生の将来の夢について、自国と日本では大きく異なるということを授業で学んだ。実際に日本の中学生にインタビューして生の声を聞きたい」という設定のもと、ペアワークやインタビュー活動をしていく。

(3) 高等学校授業実演 (50分)

実演者：根立 望 教諭

(新潟県立新発田高等学校2年生)

助言者：太田 光春 教授

(名古屋外国語大学)

＜内容＞教科書を読み終えた後のpost-reading活動。登場人物の心情を理解し、考えたことを英語で発表し合いながら内容理解を深めていく。即興的なやりとりを楽しむ生徒の姿と、そこから生まれる生徒の英語を教師がrecastしながら一緒に授業をつくっていく。非常にハイレベルで見応えのある授業であった。

4 分科会

期 日：11月23日(木)

会 場：朱鷺メッセ

新潟コンベンションセンター

小学校：4分科会

中学校：6分科会

小中連携：3分科会

高等学校：13分科会

5 今年度の特徴

今年度の研究発表は、次期学習指導要領を踏まえ、即興的なやりとりと発表に力点が置かれていた。特に高等学校の授業実演はその典型で、参観している先生方から非常に高評価を受けた。1日目の講演・授業実演、そして2日間の分科会合計で1400人を越える先生方が集まる盛大な研究大会であった。

第41回 関東甲信地区英語教育研究協議会 長野大会
～CAN-DO リストを活用した指導と評価の工夫～

グローバル社会を生きる日本人に求められる コミュニケーション能力の育成

副会長 刀根 武史

1. 期 日
平成29年11月17日（金）
2. 会 場
全体会場 下諏訪総合文化センター
第1分科会 下諏訪中学校
第2分科会 下諏訪社中学校
第3分科会 岡谷北部中学校
第4分科会 岡谷東部中学校
第5分科会 小井川小学校
3. 大会日程
10:00 受付
10:30 開会行事
基調提案、記念講演
12:05 県内提案
12:45 昼食・移動
14:00 公開授業
15:05 授業研究会
15:40 県外提案、研究協議
16:45 閉会行事
4. 参加者
371名（東京12名）
5. 分科会テーマ
(1) 第1分科会
他領域と関連づけた
「聞くこと」の授業改善
県外提案 山梨県、群馬県
(2) 第2分科会
他領域と関連づけた
「話すこと」の授業改善
県外提案 千葉県、神奈川県
(3) 第3分科会
他領域と関連づけた「読むこと」の
授業改善
県外提案 埼玉県、東京都
(4) 第4分科会
他領域と関連づけた
「書くこと」の授業改善
県外提案 茨城県、栃木県
(5) 第5分科会
教科化に向けた学級担任による
外国語活動の授業改善
県外提案 埼玉県、茨城県
6. 第3分科会 県外提案 東京都
・提案者 伊藤 智子 主任教諭
(足立区立江北桜中学校)
・主題「読んだことを基に自分の考え
を表現する英語科の指導の工夫～パ
ラグラフ構成を手掛かりにして～」
・指導助言 中谷 愛 統括指導主事
(東京都教職員研修センター)
7. その他
(1) 第44回大会について
・開催地 埼玉県
・期 日
平成30年11月16日（金）
・全体会場 鴻巣市文化センター
(2) 第44回大会について
・開催地 東京都
・期 日
2019年11月15日（金）
・全体会場 未定

千代田区

I. 研究主題

「千代田区中学校海外交流教育派遣事業
のための教材および指導案の開発」

II. 研究の経過

◇4月12日 一斉部会

内 容：組織作り、研究主題の設定

◇6月7日 教科部会

内 容：過年度の教材・指導案の
データ収集

◇6月14日、24日、7月1日、15日、22日

8月1日 英会話講習

内 容：英会話の講習会

会 場：神田一橋中学校

*今年度は本区の海外交流教育派遣事業
が中止となったため、神田一橋中学校
のオーストラリア語学研修に参加する
中学2年生を対象に実施した。

◇2月15日 ペスタロッチ祭

内 容：研究の報告

◇3月 教科部会

内 容：今年度の反省と次年度の計画

*次年度は英会話の指導に継続して活用
できる冊子を作成する。

(神田一橋中学校主任教諭 池田弘平 記)

中央区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫
～パフォーマンステスト実施に向けて」

II. 研究の経過

◇4月12日

組織作り、研究主題決定、
年間活動計画作成

◇4月26日

スピーキングテスト検討

◇6月14日 講演会

「新学習指導要領の改訂と

パフォーマンステスト実施に向けて」

講 師：東京外国語大学総合国際学研究院
高島 英幸 先生

◇9月13日 講演会

「How can students improve speaking
fluency and develop grammar?」

講 師：明治大学 Mr. Brett Davies

◇10月4日 第1学年研究授業

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 5 Our New Friend

授業者：石川 裕紀 教諭 (佃中)

講 師：東京外国語大学総合国際学研究院
高島 英幸 先生

◇10月10日～1月19日

スピーキングテスト実施

◇11月15日 第1学年研究授業

授業内容：NEW CROWN 1 Project 2

友達にインタビューをしよう

授業者：谷口 了太 主幹教諭

Peter Tu (ALT) (晴海中)

講 師：中央区教育委員会

上原 史士 先生

◇2月21日 今年度の反省

(晴海中学校主幹教諭 谷口了太 記)

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫 一 小・中学校の接続を踏まえて」を主題とし、小学校国際科研究部と連携して実践・研究を進めた。

II. 研究の経過

- ◇ 5月17日 年間計画立案、組織編制
- ◇ 6月7日 港区英語発表会の運営方針確認
- ◇ 9月13日 授業研究
 授業者：鈴木 由美子 教諭
 (青山中学校)
 授業内容：第1学年 COLUMBUS 21
 Book 1 Unit 5 Breakfast
 Time
 研究部のテーマに基づく授業
 実践と協議
- ◇ 11月8日 港区立中学校英語発表会
 赤坂区民センターで、スピーチ、プレイを
 を発表し、各校のネイティブ・ティー
 チャーも参観した。白金の丘中学校のス
 ピーチが第一位となり、都大会に出場し
 た。
- ◇ 1月10日 実践・研究のまとめ
 次年度の研究会運営方針の確認、都
 「児童・生徒の学力向上を図るための調
 査」の調査結果説明会の報告
- ◇ 2月7日 港区教育研究会幼・小・中合
 同研究発表会
 * 上記の部会に加え、各校で校内研究
 会、アカデミー(幼・小・中一貫教育
 の組織)ごとの研究、国際科担当者会
 等で授業研究を実施し、実施内容や成
 果等を10校で共有し、授業改善に生
 かした。
 (高陵中学校教諭 谷田啓 記)

I. 研究主題

「確かなコミュニケーション能力の育成」

- ① 「CAN-DOリスト」の作成と活用
 - ② 小学校英語活動を踏まえた連続性のある指導
 - ③ ALTを効果的に活用したTT指導
- II. 研究の経過
- ◇ 5月10日 春季一斉部会
 組織作り、研究テーマと活動計画決定
 - ◇ 7月13日 第一回研究授業
 授業者：平井 千夏 教諭
 (新宿区立新宿西戸山中学校)
 講師：和泉 伸一 上智大学 教授
 「『CAN-DOリスト』の活用と実践」
 - ◇ 8月1日 夏季一斉部会
 講師：関 実 先生 西新宿中学校
 「英語教育指導の手引きの活用の仕方について」
 講師：中村 貴美子 先生
 KIM's 英語教育・英語研究所
 所長
 「新学習指導要領に向けてどのように
 授業を改善していくか」
 - ◇ 8月9日
 第33回新宿区中学校英語学芸発表会
 スピーチの部・プレイの部開催
 - ◇ 9月5日 第二回研究授業
 授業者：熊木 美誉 教諭
 上原 理沙 教諭(落合中学校)
 講師：和泉 伸一 上智大学 教授
 「CAN-DOリストを活用した授業」
 - ◇ 10月4日 秋季一斉部会
 タブレットを用いたデジタル教科書の
 活用について
 講師：桐生 祥佳 教諭
 (牛込第一中学校)
 「海外派遣研修報告」
 - ◇ 1月30日 第三回研究授業
 授業者：佐藤 光正 教諭
 (牛込第二中学校)
 講師：和泉 伸一 上智大学 教授
 「ALT を効果的に活用した TT 指導」
 (新宿中学校主任教諭 山崎美砂子 記)

文 京 区

I. 研究主題

「インタラクションのある授業を通して、コミュニケーションへの意欲と能力を高める指導の工夫」－ICT機器を効果的に利用して－

II. 研究の経過

◇ 5月10日(一斉部会)

英語部組織作り、研究主題の決定

◇ 11月15日

研究授業：(茗台中学校)

授業者：大木田 陽子 主任教諭

内容：教科書の音読指導を基本にして、まとまった英語を創出させる言語活動が行われた。ICTを活用し、生徒の発話を活発にしていた。また、題材の理解を深めさせる工夫があった。協議会では指導案の chunk ごとに指導法のあり方を議論・共有した。

◇ 11月22日・23日

全国英語教育研究大会への参加

中山 静寿保 主幹教諭(茗台中学校)
小中高の各授業公開と分科会に参加した。小学校の実践では郷土料理をALTに紹介する活動が印象的であった。『ライティング指導』の分科会では、生徒が苦手な英作文の、fluencyを重視した指導法その成果を学ぶことができた。

◇ 1月18日 区中研英語部会

会場：第九中学校

研修会：「テストと評価」

講師：工藤洋路先生(玉川大学)

コミュニケーション視点での問題作成について研修会を行った。

①講義・ワークショップ

②グループ討議：3名が定期考査の問題を提示し、出題法、評価法、授業実践等について議論をした。

③各グループ報告、講師からの助言。

(第八中学校主任教諭 溪内明 記)

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題と実践」

II. 研究の経過

◇ 4月10日 区中研総会・一斉部会

・組織づくり、研究主題の決定等

◇ 6月14日 授業研究

・ALTによる模擬授業、教材の共有化

授業者：Michael Youn

(ボーダーリンク株)

単元名：Let's Talk 3

「どこにありますか」

・第1回英語学芸会検討会

実施要綱案の検討

◇ 9月6日 第2回英語学芸会検討会

・英語学芸会実施要綱(細案)の検討

◇ 10月4日 研究授業・研究協議会

授業者：三田里奈教諭(駒形中学校)

単元名：Let's Talk 4

「買い物をしよう」

講師：渡部 秀雄 先生

東京都英語科講師

学力向上推進ティーチャー

◇ 11月4日 第65回英語学芸会

会場：台東区生涯学習センター

ミレニアムホール

参加校：台東区立中学校全校(7校)

内容：RECITATION(5校)

SPEECH(17名)

PLAY(忍岡中ESS)

◇ 11月17日 関東ブロック長野大会

参加者：浦田哲男副校長

(御徒町台東中学校)

(御徒町台東中学校副校長 浦田哲男 記)

墨 田 区

- I. 研究主題
「コミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図る指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月19日 区中研総会・一斉部会
①役員選出：組織づくり
②研究主題：年間活動計画の検討
- ◇6月28日 区中研前期研究授業
①授業者：望月 光代 主幹教諭
蔵 知英 教諭
松本 真衣 教諭
(本所中学校)
単元名：2年「Unit 3 Career Day・Presentation1 将来の夢」
協議会：生徒のアウトプットの機会を増やす取り組みとフィードバックについて
- ◇8月28日 区中研英語科夏季研修会
①「効果的なアクティビティの紹介」に係る講義及びワークショップ等
講師：株式会社インタラックより
②区学力調査報告
報告者：堀越 亜希 教諭 (両国中学校)
本田 耕大 教諭 (文花中学校)
③中学生海外派遣について
報告者：河野 敏也 主幹教諭 (寺島中学校)
高田 奈々 教諭 (錦糸中学校)
- ◇11月29日 区中研後期研究授業
①授業者：杉山 亜希子 教諭
辰田 りえ 教諭
石塚 登美子 教諭
(墨田中学校)
単元名：1年「Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ」
協議会：学習内容の定着と学習習慣の確立について
②新教育課程について
報告者：関谷 知美 教諭 (豎川中学校)
③都学力調査報告
報告者：池尻 辰雄 主任教諭 (両国中学校)
④教員海外派遣報告
報告者：小川 可奈子 教諭 (両国中学校)
- ◇12月21日 区学習状況調査結果分析における「指導のポイントを具体化した公開授業」(中学校英語)
①授業者：堀越 亜希 教諭 (両国中学校)
単元名：3年「Unit 6 Striving for a Better World」
協議会：「話すこと」と「書くこと」を関連づけた指導の充実について
- ◇2月14日 区中研 研究発表会
(墨田リバーサイドホール)
(錦糸中学校教諭 高田奈々 記)

江 東 区

- I. 研究主題
「4技能を統合した指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇5月8日 区中研一斉部会
・内容：活動計画、組織作り
- ◇6月21日 教科交流授業研究の日
・深川会場：深川第五中学校
授業者：鈴木 知美 主幹教諭
講師：慶野 富士夫 主幹教諭
(深川四中)
・城東会場：第二砂町中学校
授業者：山本 由紀 主任教諭
講師：赤田 洋一 主幹教諭
(大島中)
- ◇11月7日 江東区英語学芸会
・会場：江東区亀戸文化センター
・内容：speech、play、others
speech優勝校(第二砂町中)が都学芸大会に出場
- ◇10月11日 教科交流授業研究の日
・深川会場：有明中学校
授業者：小川 祐美子 教諭
講師：桑野 哲治 主任教諭
(深川一中)
・城東会場：亀戸中学校
授業者：山岸 明子 主任教諭
小林 竜也 教諭
神野 絵美 教諭
講師：臼井 宏次 主任教諭
(第二大島中)
- ◇12月11日 区中研英語部研究授業
・会場：大島中学校
授業者：越智 好美 主任教諭
飯尾 礼スタンダード
強化講師
- ◇2月7日 区中研一斉部会
・内容：1年間のまとめ
(第二南砂中学校副校長 吉村達也 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育における具体的な指導の在り方」～9年間の系統性を明確にして～

II. 研究の経過

- ◇4月12日 研究テーマ、組織決定
- ◇5月10日 「Welcome to Tokyoの活用について」
講師：田中 純子 先生
(教育庁指導部指導企画課国際教育班指導主事)
- ◇6月7日 研究授業
授業者：山元 良太 先生 (荏原一中)
講師：本田 勝久 先生
(千葉大学教授)
- ◇7月5日 研究授業
授業者：堀之内 滯那 先生
(源氏前小)
講師：本田 勝久 先生
(千葉大学教授)
授業者：森沢 俊彦 先生 (荏原五中)
講師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中)
- ◇9月6日 研究授業
授業者：根岸 琴美 先生 (芳水小)
講師：アレン 玉井光江 先生
(青山学院大学教授)
- ◇10月4日 研究授業
授業者：吉岡 祐樹 先生 (大崎中)
講師：本田 勝久 先生
(千葉大学教授)
- ◇11月8日 英語学習成果発表会
- ◇12月6日 研究授業
授業者：鶴澤 彩子 先生 (小山台小)
講師：富岡 直美 先生
(葛飾区英語教育リーダー)
- ◇1月18日 「小中連携のポイント」
- ◇2月15日 研究発表会
講演：「小中連携の推進」
講師：窪田 香 先生
(教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事)
(小山台小学校校長 柳歆子 記)

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月12日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- ◇7月5日 研究授業 第九中学校
「授業改善に向けて」
授業者：関根 公子 主幹教諭
佐々木 昭央 主幹教諭
- ◇10月11日 東京都英語学芸大会
打ち合わせ
- ◇11月8日 東京都英語学芸大会予選会
目黒区大鳥中学校3年優勝
講師：岩崎 紀美子 先生
(世田谷区立玉川中学校校長)
- ◇1月10日 研究発表会に向けた協議会
- ◇1月31日 1年間のまとめ
小中合同研究実践発表会
講師：山口 隆博 先生
(田園調布学園大学)
- ◇2月28日 研究発表会
「確かな学力を身につけさせる指導の工夫
～導入、展開、まとめの実践例から～」
(まとめ)
2月の研究発表会に向けて、研究主題のもと協議を重ねた。授業の「導入」「展開」「まとめ」に分けて組織作りをし、各学校の実践例を共有、研究した。特に「導入」では効果的な Warm Up (帯活動) について、「展開」では ICT の活用例や留意点について、「まとめ」では Can Do Card (ふりかえりカード) に関して研究を深めることができた。
(第九中学校長 田原弘一 記)

大 田 区

I. 研究主題

「アクティブ・ラーニングを取り入れた指導の工夫」（1年目）

II. 研究の経過

- ◇4月12日 第1回部会（蒲田中）
部員自己紹介、組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等
 - ◇7月4日 研究授業（蓮沼中）
授業者：石上 新太郎 教諭（蓮沼中）
講師：石井 亨 主任教諭
（文京区立第十中学校）
 - ◇11月10日 連合学芸会（英語の部）
会場：大田区民センター
発表：スピーチ35名、プレイ3校
（都英語学芸会出場者の決定）
 - ◇12月3日 都英語学芸会
大田区立大森東中学校の神園桃果さんがスピーチの部に出場
 - ◇1月31日 第2回部会（蒲田中）
今年度の総括及び来年度の予定
研修：「新学習指導要領について」
「海外派遣研修報告」
 - ◇2月5日 研究授業（大森第二中）
授業者：桑田 諒 教諭（大森第二中）
講師：ブリティッシュ・カウンスルから派遣。
 - ◇BULLETIN -OTA English Today-
（紀要）を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第28号である。
- ### III. 今年度の部員数：100名
- （蒲田中学校長 和田文宏 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

「次期学習指導要領に向けた指導の工夫」

II. 研究の課程

- ◇5月17日 世中研修 総会（尾山台中）
- ◇6月7日 前期研究会：
ICTの活用について
AIを応用した英語学習用ロボット「MUSIO」を使って生徒の話す意欲を高める工夫
授業者：樋口 英美 教諭（桜丘中）
講師：株式会社GLOBAL VISION
木村 宣章 氏
- ◇11月1日 第27回スピーチコンテスト（成城ホール）
- ◇12月15日 研究部主催研修会
「英語で和食lesson」：
CLIL（Contents and Language Integrated Learning）の一環で行われている授業実践
講師：Buddha Bellies
Cooking School Tokyo
代表 秋山 亜裕子 先生
（深沢中学校主任教諭 花本宣広 記）

渋谷区

I. 研究主題

「ICT機器を用いた教科書の効果的な活用の研究」

II. 研究の経過

- ◇5月1日 渋谷区中学校教育研究会
英語部会
 - ・組織編成、研究主題、研究授業校及び授業者の決定
- ◇9月19日 渋谷区中学校教育研究会
英語部 研究会
 - ・研究授業
 - 会 場：上原中学校
 - 授業者：加藤 雄一 主幹教諭
 - 内 容：NEW HORIZON 2
Presentation ①将来の夢
※タブレットを用いた
スピーチ練習の指導
- ◇1月19日 渋谷区研究発表会
 - 会 場：鉢山中学校
 - 授業者：曾根 真未 教諭
 - 内 容：NEW HORIZON 3
Unit 6 Presentation 2
(鉢山中学校長 比嘉朝明 記)

中野区

I. 研究主題

「すべての生徒が生き生き参加できる授業の工夫～小学校との連携を意識した四技能の育成～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 区教研一斉教科部会
研究主題、年間活動計画の決定
- ◇6月7日 研修会
 - 内 容：オーストラリア派遣報告
グループ協議
 - ①小学校外国語活動を踏まえた入門期の指導方法について
 - ②乗り入れ授業の指導方法について
- ◇11月4日 英語学芸会
 - 会 場：野方WIZ
 - 参加校：中野中学校、南中野中学校、
緑野中学校、第二中学校、
第七中学校、第八中学校
- ◇1月18日 研究授業
 - 授業者：西尾 恭子 教諭
 - 会 場：第四中学校
 - 内 容：SUNSHINE ENGLISH
COURSE1
POWER-UP⑨ Reading
 - 講 師：明治学院大学講師
田口 徹 先生
- ◇2月21日 中教研英語部会 研修会
 - 内 容：「すべての生徒が生き生き参加できる授業の工夫」
 - 講 師：文京区立第十中学校主任教諭
原田 博子 先生
(第四中学校主任教諭 松田佐知子 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価」

II. 研究の経過

- ◇4月12日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇8月25日 夏季ワークショップ
「これからの英語教育」
講 師：上智大学教授
吉田 研作 先生
「English Refresher」
講 師：BRITISH COUNCIL所属の
外国人講師
- ◇10月4日 子小中合同研究会
研究授業
授業者：鈴木 美帆 教諭（向陽中）
高山 翔 教諭（向陽中）
単元名：東京書籍NEW HORIZON
English Course 1 Unit7
「ブラジルから来たサッカーコーチ」
講 演：「小中連携によるこれからの
英語教育を考える」
講 師：文部科学省教科調査官
直山 木綿子 様
- ◇11月4日 英語学芸発表会
スピーチ部門16人、
ショー部門8グループの発表があった。
- ◇1月17日
講 演：「杉並区の英語教育～区特定
課題調査が目指すところ」
講 師：済美教育センター主任研究員
山口 裕也 様
- ◇2月下旬 杉並区リスニングテスト
（大宮中学校主任教諭 小川小百合 記）

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒が意欲的に言語活動に取り組む授業の工夫～小中連携をふまえて」

II. 研究の経過

- ◇4月12日 区中研一斉部会（駒込中）
年間行事計画、組織・係分担、
研究主題決定、研修会・全英連
関プロ・英語学芸会の確認
- ◇8月23日 区中研一斉部会（駒込中）
講 師：港区立赤坂中学校
北原 延晃 主任教諭
演 題：小学校英語教育との接続を
踏まえた授業改善
- ◇11月8日 区小研研究授業参加
（南池袋小）
授業者：平山 めぐみ 教諭
講 師：文科省国立政策研究所
名誉所員 渡邊 寛治 先生
- ◇11月17日 関東ブロック長野大会に
参加（下諏訪市）
- ◇12月16日 RC フェスタ
（千登世橋中、西巣鴨中）
豊島区読書フェスタに参加。自分の身の
回りの事について、既習の英語を用い、
スピーチを行った。
- ◇1月17日 区中研研究授業
（池袋中学校）
授業者：伊地知 義信 指導教諭
内 容：現在進行形を用いて、身近な場
面設定で、友達とコミュニケー
ション活動を行う。
講 師：駒込中学校
飯島 光正 校長先生
（明豊中学校主任教諭 小林博子 記）

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
をめざした授業の工夫」

II. 研究の経過

◇4月26日 北区教育研究会英語・外国語
活動研究部小中合同部会・中学校部会

内 容：組織作り、研究目標、
活動計画、情報交換

◇英語教育推進リーダー還元研修
(研修日：6/29、7/18、
8/23、8/24、9/26)

講 師：根本 誉 主幹教諭
(王子桜中)

◇11月8日 連合英語学会

場 所：北区立滝野川会館

参加者：8校15名、英語劇(飛鳥中)

最優秀生徒(桐ヶ丘中2年)

東京都英語学会大会に参加

◇11月22日 中学校研究授業

授業者：古谷 ちひろ 教諭

(十条富士見中)

対 象：中学校1年

単 元：NEW HORIZON

English Course 1

「Daily Scene 5 道案内」

講 評：北区外国語教育アドバイザー

坂下 孝憲 氏

◇12月3日 東京都英語学会

英語スピーチ参加、優勝

◇2月8日 中学校研究授業(桐ヶ丘中)

授業者：志村 翔太 教諭

原 大 教諭

対 象：中学校1年

単 元：NEW HORIZON

English Course 1

Unit11「思い出の一年」

授業者：安島 則男 主幹教諭

佐川 雅美 教諭

林 夏帆 教諭

対 象：中学校2年

単 元：NEW HORIZON

English Course 2 Unit 7

「The Movie Dolphin Tale」

講 師：北区外国語教育アドバイザー

宗方 隆三 氏

(飛鳥中学校主任教諭 鳥谷亮 記)

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

◇4月19日 組織づくり、主題決定

◇7月5日 講演 尾久八幡中学校

内 容：「CAN-DOリストの指導実践」

「パフォーマンステストを

活用した指導の実際」

講 師：東京都教職員センター専門教育

向上課統括指導主事

中谷 愛 先生

◇9月13日 小中合同部会

研究授業 諏訪台中学校

授業者：横澤 敦子 主任教諭

千田 祥顕 教諭

大井 美紀 教諭

講 演：荒川区教育指針改定について

講 師：荒川区教育委員会 指導主事

岩渕 和行 先生

◇11月2日 英語スピーチコンテスト

サンパール荒川

◇11月15日 研究授業 原中学校

授業者：駒澤 正人 主幹教諭

會川 こころ 主任教諭

三那川 恵梨 教諭

講 演：生徒の読む力を伸ばす指導の

工夫

講 師：玉川大学比較文化学科 准教授

工藤 洋路 先生

◇1月17日 小中合同部会

研究授業：尾久宮前小学校

授業者：志村 悠子 教諭

「自分の思いや考えを伝え

ようとする児童の育成」

◇2月14日 研究発表会(紙上発表)

(尾久八幡中学校教諭 佐野賢太郎 記)

板 橋 区

I. 研究主題

「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成～ICT機器とアクティブ・ラーニングを活用した工夫ある授業～」

II. 研究の経過

- ◇4月12日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題・年間活動計画等の決定
- ◇6月22日 第1回授業研究
授業者：有賀健人（板橋三中）
- ◇8月2日 夏季ワークショップ
講演会：意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成～ICT機器とアクティブ・ラーニングを活用した工夫ある授業～
講 師：日本女子大学 特任教授
稲葉 秀哉 先生
- ◇11月7日 「英語のつどい」
会 場：板橋区立アクトホール
出場校：20校（スピーチ、劇等）
- ◇11月8日 第2回授業研究
授業者：大樂 怜史 教諭（志村二中）
- ◇2月8日 区中研教職員研究発表会
- 英語部会研究発表
 - ①「電子黒板・書画カメラの効果的な活用」（高島第二中学校）
 - ②「デジタル教科書を活用した授業例」（志村五中）
 - ③「電子版NEW HORIZON 1を利用した単語学習の例」（桜川中）
 - ④「ICT機器の活用」（高島三中）
- ◇2月15日 第3回授業研究
授業者：海老沢 優子 教諭
（赤塚三中）
（志村第四中主任教諭 風間佳子 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また、アクティブ・ラーニングの手法等を用いて、生徒の思考力・表現力および主体的に学ぶ力を育てる。」

II. 研究の経過

- ◇5月10日 区中研一斉部会
- ◇6月21日 授業研究会（旭丘中）
授業者：祖母井 千秋 教諭
- ◇8月2日・3日 夏期研修会
 - * 「主体的・対話的で深い学びを育む問題解決型（タスク型）言語活動の必要性」
講 師：高島 英幸 先生
（東京外国語大学教授）
 - * 「小学校外国語活動で指導していること」
講 師：村瀬 先生（仲町小）
山中 先生（上石神井小）
小島 先生（関町小）
 - * 「英語授業のスタンダード」
講 師：統括指導主事
西貝 裕武 先生
（足立区教育委員会）
 - * 「『無責任なテスト』への処方箋」
講 師：根岸 雅史 先生
（東京外国語大学教授）
- ◇11月5日 英語学芸会
（練馬区立生涯学習センター）
都大会出場校：豊玉中 “Luna”
- ◇11月8日 授業研究会（光が丘三中）
授業者：相澤 雄介 教諭
（大泉中学校教諭 加藤広太郎 記）

足 立 区

I. 研究主題

「足立スタンダードを活用した授業づくりを目指して～小中連携とCAN-DOリストを踏まえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月19日 一斉部会（千寿桜堤中）
 - ・研究テーマ、事業計画、組織の確認
- ◇7月12日 ブロック別授業研究（千寿桜堤中、第五中、青井中、第十中、伊興中）
- ◇9月6日 小中合同研修会（第十中）
 - ・平成29年度東京都海外派遣研修参加者によるワークショップ
- ◇10月12日 小中合同研修会（竹の塚小）
 - ・授業者：角田 恵里 教諭
 - ・講 師：文部科学省
国際教育課教科調査官
直山 木綿子 先生
- ◇10月26日 連合英語学芸会（西新井文化ホール）
 - ・スピーチの部 優勝 竹の塚中学校
花畑中学校
 - ・プレイの部 優勝 千寿桜堤中学校
- ◇11月15日 ブロック別授業研究（第四中、江南中、谷中中、東島根中、竹の塚中）
- ◇12月19日 足立スタンダード模範授業
 - ・授業者：湊江中学校
柴野 泰行 指導教諭
 - ・講 師：入谷南中学校
遠藤 哲也 校長
- ◇1月31日 一斉部会（第十中）
 - ・講 演：「COLUMBUS 21の使い方」
 - ・講 師：東京家政大学
小泉 仁 教授
(入谷中学校主幹教諭 角田幸彦 記)

葛 飾 区

I. 研究主題

「『思考力・判断力・表現力』を育む段階的な指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月5日 ALT導入全校説明会、
割当調整会議
- ◇5月10日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇7月11日 第1回研究授業
授業者：橋本 晋作 教諭
(中川中)
講 師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中学校)
- ◇11月1日 第2回研究授業（小中合同）
授業者：横山 奨 教諭
(新宿中)
講 師：白倉 美里 先生
(東京学芸大学 講師)
- ◇11月11日
第32回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト（於：新小岩中学校）
暗誦（5名）プレイ（3校）スピーチ1（12名）スピーチ2（24名）参加、スピーチ2優勝者（四ツ木中3年）が都大会に出場した。
- ◇2月19日 第3回研究授業
授業者：伊東 卓思 主任教諭
(新小岩中)
講 師：田口 徹 先生
(明治学院大学 講師)
- ◇3月2日（予定）
役員会：年度末反省、次年度活動計画、
名簿作成、情報交換
(立石中学校主任教諭 河野光志 記)

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導方法の工夫」

II. 研究の経過

- ◇5月10日 総会、役員会
 - ・組織づくり
 - ・年間活動目標、計画の検討、作成
- ◇6月7日 模範授業、講義
「中学英語の基礎基本」
授業者・講師：明石 達彦 主任教諭
(西葛西中)
 - ・H28全国大会報告
関口 智 指導教諭 (清新一中)
- ◇6月13日 模範授業、協議会
授業者：関口 智 指導教諭
(清新一中)
- ◇8月1日 夏季研修会
(午前の部)
「パフォーマンス・テスト」
講師：石井 亨 先生
(文京区立第十中学校)
(午後の部)
「ゴールを設定し、2学期の授業を
考える」
講師：福田 真希子 教諭 (鹿本中)
- ◇11月13日 模範授業、協議会
授業者：関口 智 指導教諭
(清新一中)
- ◇2月7日 講演会
「新学習指導要領が求める英語科の授業」
講師：西垣 知佳子 先生
(千葉大学教授)
(南葛西第二中学校長 福沢俊之 記)

八王子市

I. 研究主題

「実践的な授業を通じた授業力・指導力
の向上」

II. 活動の経過

- ◇5月2日 役員会
主題設定、組織、活動計画確認
- ◇6月8日 師範授業 (第五中学校)
授業者：出口 由香里 教諭
講師：佐藤 ひろみ 先生 (横川中)
- ◇8月2日 スキルアップ研修会
授業力・英語力のブラッシュアップ
「ネイティブ講師による英語力のブラッ
シュアップ」 (演習)
講師：Jeffrey Jones氏 (財) ELEC
Tony Gibson氏 (財) ELEC
- ◇10月30日 研究授業 (鏈水中)
授業者：長沼 由香 教諭
講師：佐藤 ひろみ 校長 (横川中)
堀内 雄士 校長 (七国中)
- ◇11月1日 一斉部会 研究授業
1ブロック
授業者：石川 晴菜 教諭 (第五中)
講師：山下 喜世子 様
(元第五中学校)
2ブロック
授業者：中山 文 教諭 (楯原中)
講師：関谷 さやか 様
(都教委指導主事企画課 国際教育)
3ブロック
授業者：丹保 かおる 教諭 (由井中)
講師：岡野 友美 様
(早稲田大学高等学院中等部教諭)
4ブロック
授業者：長田 莉奈 教諭 (由木中)
講師：市川 拓治 様
(東京都教職員研修センター研修部教育開発課)
- ◇2月 研究授業 情報・意見交換
授業者：中川 正樹 教諭 (楯原中)
(石川中学校副校長 小島幸子 記)

立 川 市

I. 研究主題

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てる」

～小中連携教育の視点を生かして～

II. 研究の経過

◇5月10日 立中教研一斉部会

組織作り 活動計画

◇8月24日 夏季研修会

『生徒の主体的な学びに繋がる指導方法の研究』

講義及び演習：「生徒の英語力を伸ばす～少人数指導の工夫～」

講 師：相沢 秀和 指導教諭

(国分寺市立第一中学校)

内 容：①生徒の「使える英語」の育成

②プロジェクト方式の授業

③評価の工夫 等

◇10月4日 研究授業

『生徒の主体的な学びと英語科の授業における小中連携教育の視点』

授業者：池田 和磨 主任教諭

(立川第二中学校)

内 容：Total English 2 Lesson 5 Part 1

「3人称・単数・現在」という

表現のイメージ作り

講 師：北原 延晃 主任教諭

(港区立赤坂中学校)

講 演：「英語科における小中連携の具体策」

◇2月14日 研究発表会

内 容：研究の概要、成果と課題

(第一中学校主幹教諭 入江裕美子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「小中における外国語・英語活動の連携～次期学習指導要領のねらいを踏まえて～」

II. 研究の経過

◇4月19日 教育研究会一斉部会

◇5月17日 活動計画の決定

◇6月、7月 小学校部会

◇10月11日 研究授業Ⅰ

授業者：林 茂生 主任教諭

対 象：大野田小学校 4年生

講 師：東京学芸大学附属大泉小学校
石毛 隆史 先生

内 容：好きな食べ物を伝え合う

協 議：「音声を大切にしたい」外国語活動

◇11月8日 教材に関する情報交換

◇12月6日 授業観察

授業者：石塚 陽介 教諭

船木 湧斗 教諭

対 象：桜野小学校 6年生

内 容：できることを紹介しよう

協 議：普段はALT+JTEのTTで行う内容をJTE二名のTTで授業を行い、次年度以降につながる授業となった。

◇1月17日 研究授業Ⅱ

授業者：井上純子 教諭・井出夏子 教諭

対 象：第一中学校 1年生

講 師：成蹊大学文学部教授
小野 尚美 先生

内 容：Lesson 8

“School Life in the USA”

協 議：音を頼りに文字や意味へつなげる、音から文字、文字から意味へとの結びつきを意識した活動が多く、言語習得への効果的なアプローチの多い授業だった。

III. 成果と課題

小中合同の研究部となって二年目の本年度は、教材をはじめ、児童・生徒に合わせた段階的な指導についてのより多くの研究を行うことができた。移行措置の学習内容を含め、次期学習指導要領の実施に向けた準備を次年度の研究につなげていきたい。

(第二中学校教諭 郡山樹理 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～小中連携のより効果的な試み～」

II. 研究の経過

- ◇4月12日 組織決めと年間活動計画
 - ◇5月10日 講演会「新学習指導要領と切り拓く授業デザイン」
(一般財団法人教育調査研究所 寺崎 千秋 氏)
 - ◇6月15日 小中合同研究授業
単元名：Program 4 リサイクル活動
New Sunshine English Course 1
授業者：飯塚 剛 主任教諭
(第五中学校)
講 師：松永 透 先生
(三鷹市教育委員会 指導課長)
 - ◇9月13日 第五小学校にて山口ありさ教諭による研究授業
第一中学校にて「ALTとの関わりを生かした授業づくり」ワークショップ
 - ◇10月11日 小中合同研究授業
単元名：What do you want to be?
授業者：川村 克枝 主任教諭
(井口小学校)
講 師：鈴木 恭子 先生
(三鷹市教育委員会 指導主事)
 - ◇11月9日 南浦小学校にて朝比奈 美枝子 主任教諭による研究授業
第一中学校にて講演「新学習指導要領に向けた指導について」
(東京都教育委員会指導部義務教育課 統括指導主事 窪田 香 氏)
 - ◇1月17日 第一中学校にてワールドカフェ方式による協議会
テーマ：小中連携した英語の授業作り、小学校英語教科化について
 - ◇2月14日 講演会「小学校英語教科化に向けて準備しておくべきこと」
(文教大学 教授 金森 強 氏)
- 今年度の研究のまとめ
(第七中学校主任教諭 川村友紀 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造（主体的・対話的に学ぶ意欲態度の育成）」

～小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために～

II. 研究の経過

- ◇5月10日 中教研全体会・部会
 - ◇8月30日 一斉教科部会
- 【研修内容】
- 生徒が意欲を持って取り組むアクティビティーの実際と工夫
 - 生徒が継続的に興味をもって英語に触れるようになる教材の工夫」等
- ◇10月25日 一斉研究授業
- 【授業者】山口 真理 教諭 (七中)
- 【講 師】東京都立両国高校付属中学校 主任教諭 杉本 薫 先生
(指導・講評)
- 授業の中心は英語を使うこと、英語になれることである。
 - 同じ事を何回も繰り返し、飽きさせないように工夫し、学習したことを一人でも練習・学習できるようにさせる。
 - 指導と評価が一体となって学習の動機を支える。「なぜ学習するのか、何のために学習するのか」という疑問に授業の中で答えること。
- ◇11月27日 東京教師道場部員による授業公開参観
- 【授業者】柳町 啓次 教諭 (泉中)
- 【講 師】都教職員研修センター 統括指導主事 中谷 愛 先生
(西中学校副校長 廣瀬尊貴 記)

府 中 市

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫～4技能をバランスよく伸ばす指導のありかた～」

II. 研究経過及び内容

- ◇4月12日 部員総会
部長等役員選出、研究主題・年間研究計画検討、授業研究校の確認
- ◇6月7日 小中連携の日
各地区の授業公開と協議会に参加
- ◇8月21日 サマーワークショップ
講師：マイケル・ユン 氏ほか7名
英語サマーキャンプの見学、参加
- ◇9月13日 研究授業・協議会
授業者：佐藤 陽子 教諭（三中）
- ◇10月11日 ワークショップ①
授業で実践できるコミュニケーション活動①
講師：マイケル・ユン 氏
- ◇11月8日 ワークショップ②
授業で実践できるコミュニケーション活動②
講師：マイケル・ユン 氏
- ◇12月13日 英語指導における小中連携（小5、小6～中1）の検討
- ◇1月17日 研究授業
授業者：玉田 寛美 教諭（二中）
講師：内田 富男 先生
（明星大学人文学部准教授）
- ◇2月7日 府教研研究発表会
- ◇3月7日 研究のまとめ
次年度の研究主題や研究内容の検討と引き継ぎ事項の確認
（八中主任教諭 安部利恵 記）

昭 島 市

I. 研究主題

「CAN-DOリストを活用した授業改善」

II. 活動報告

- ◇4月19日 部員総会
内 容：研究主題設定、活動計画、中学校英語教育推進モデル地区事業概要について、組織作り
- ◇6月9日 提案授業と協議
授業者：中島 規乃 教諭
（昭和中学校）
内 容：3年現在完了否定文の単元におけるデジタル教科書を活用した授業
協 議：デジタル教材の利点や工夫
制作業者からのレクチャーと質疑応答
- ◇10月4日 研究授業と講演会
授業者：田村 健二 教諭
神林 恵二 主幹教諭
（福島中学校）
内 容：3年Total, Lesson 4Cにおけるデジタル教科書を活用した本文理解
講 演：「Learning Pyramid に基づく知識の定着と指導講評」
十文字女子大学 人間生活学部
児童教育学科教授
松岡 敬明 先生
- ◇1月17日 小中合同部会
授業者：菊地 佑典 教諭
（拝島第一小学校）
城山 理央 教諭
（拝島中学校）
内 容：発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成
新学習指導要領の実施に向けて第5学年「I study Japanese.」
講 演：「ことばの学びとlearning style について」
東京家政大学 人文学部
英語コミュニケーション学科
教授 太田 洋 先生
（瑞雲中学校教諭 川本真弓 記）

調 布 市

I. 研究主題

「主体的に取り組む学習者の育成」
～アクティブ・ラーニングを活用した
授業の展開～

II. 研究の経過

- ◇5月10日 一斉部会
会 場：第七中学校
内 容：年間テーマ・予定の確定
- ◇6月7日 一斉部会
会 場：第七中学校
内 容：模擬授業の分担・DVD視聴
- ◇7月26日 夏季研修会
会 場：第七中学校
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
内 容：講演・ワークショップ
「生徒をアクティブにする
協同的な英語授業づくり」
具体例や手法など
- ◇10月11日 研究授業・協議会
※調小研合同
会 場：第五中学校
授業者：加藤 真由子 先生
(第五中学校)
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
内 容：アクティブ・ラーニングの
ポイントなど
- ◇11月8日 模擬授業研究
会 場：第七中学校
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
※小学校外国語活動授業を参観
- ◇1月17日 模擬授業研究と総括
会 場：第七中学校
講 師：江利川 春雄先生
(和歌山大学 教授)
- ◇2月7日 研究発表会
(第七中学校教諭 川邊耕太 記)

町 田 市

I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた『話すこと
(発表とやりとり)』の指導と評価」

II. 研究の過程

- ◇4月12日 第一回一斉部会
会 場：町田市立町田第一中学校
内 容：研究主題の設定
年間活動計画
組織作り
- ◇11月1日 第二回一斉部会(研修会)
会 場：町田市立町田第二中学校
内 容：講演とワークショップ
「話すこと(発表とやりとり)の指導
と評価の実際」
講 師：天池 美佐 編集長
(東京書籍株式会社)
壽原 友理子 先生
(都立両国高等学校附属中学校)
- ◇1月31日 第三回一斉部会(研究発表)
会 場：町田市立第一中学校
内 容：海外派遣研修活動報告と
ワークショップ
(海外派遣研修を経験した教員に
よる「話すこと(発表とやりと
り)の指導実践」)
講 師：萱嶋 あき 先生
(町田市立第一中学校)
(南大谷中学校教諭 福谷直樹 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「より多様で主体的なアウトプット活動
を目指して」

II. 研究の経過

- ◇4月19日 一斉部会
 - ・研究主題の検討
 - ・年間活動計画の作成
- ◇6月7日 市教研部会
 - ・ワークシートの活用
 - ・定期テスト、評価についての情報交換
 - ・ALTについての情報交換
- ◇10月4日 海外派遣研修の報告
報告者：荻原 真也 教諭
(小金井市立緑中学校)
報告者：花井 友香 教諭
(日野市立第一中学校)
- ◇11月8日 研究授業
授業者：荻原 真也 教諭
(小金井市立緑中学校)
講 師：刀根 武史 校長
(小金井第一中学校)
研究講義
 - ・小学校の先生との意見交換
 - ・インタラクションの工夫
- ◇1月17日 講演会・ワークショップ
講 師：白倉 美里 先生
(東京学芸大学)
- ◇2月7日 研究発表会
(小金井市立緑中学校教諭 荻原真也 記)

小 平 市

I. 研究主題

「Speaking力の育成～プラス1 question
でつながりのある会話を続ける授業の
工夫～」

II. 研究の経過

- ◇4月19日 教科等研究会総会
第1回英語部会
組織、計画立案
- ◇7月27日 夏期研修会① (上水中学校)
内 容：パターンプラクティスに
留まらない言語活動の在り方
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
 - ・Speaking力の向上に欠かせないInput
とFeedbackについて
- ◇7月31日 夏期研修会②
内 容：話したいことを自然に話すに
は？～外国語活動からのつな
がりを意識して～
講 師：谷口 弘美 先生
(国分寺市立第五中学校 主任教諭)
 - ・生徒の発話量が多くなるような
授業づくりの実践
- ◇8月9日 夏期研修会③
内 容：毎日の授業に『話す』場面を！
～スピーキングは特別な活動
ではない～
講 師：阿野 幸一 先生
(文教大学国際理解学科教授)
 - ・Speaking活動をする際の適切な場面
設定について
- ◇9月14日 授業研究
会 場：小平第三中学校
授業者：遠山 陽子 教諭
講 師：五十嵐 浩子 先生
(上水中学校長)
- ◇10月 まとめ、実践報告書作成
(花小金井南中学校教諭 田村溪 記)

日 野 市

- I. 研究主題
「CAN-DOリストを活用した効果的な指導」
～より良い小中の連携を目指して～
- II. 研究の過程
- ◇5月10日 中教研総会：組織作り
 - ◇6月7日 研究授業 ①小中連携研究
授業者：増岡 舞 教諭（日野第二中）
NEW CROWN 1 Lesson 2
Get 2：GOAL
『登場人物になりきって本文を読むことができる』
 - ◇7月5日 研究授業②
授業者：築田 弘子 教諭（大坂上中）
NEW CROWN 2 Project 1
「有名人を紹介しよう」
講 師：相沢 秀和 指導教諭
（国分寺第一中）
 - ◇8月22日 夏期研修会（日野第二中）
講 師：渡部 真喜子 教諭
（福島県猪苗代町立東中）
『授業におけるCAN-DOリストの活用』
 - ◇9月6日 研究授業③ 小中連携研究
授業者：永井 剛 主任教諭（七生中）
NEW CROWN 1 Lesson 3
『一日の生活』
講 師：瀧澤 広人 教頭先生
（埼玉県大里郡寄居町立寄居中）
 - ◇10月11日 研究授業④ 小中連携研究
授業者：志村 百合 主任教諭
（東光寺小）
瀬戸 容子 主任教諭
（東光寺小）
Hi, Friends Lesson 4
“I like apples.”
講 師：アレン 玉井光江 教授
（青山学院大学）
 - ◇11月6日 研究授業⑤
授業者：角田 雄紀 教諭（三沢中）
NEW CROWN 2
Lesson 7 Get-1
 - ◇12月6日 研究授業⑥ 小中連携研究
授業者：高根澤 雄也 教諭（豊田小）
Hi, Friends 2 Lesson 5
“Let’s go to Italy”
講 師：アレン 玉井光江 教授
（青山学院大学）
 - ◇2月14日 研究発表会（七生中学校）
（三沢中学校主任教諭 佐藤真雄 記）

東 村 山 市

- I. 研究主題
「教科書改訂に伴う言語活動の充実～英語を通して思考力・表現力を高める」
- II. 研究の経過
- ◇4月12日 統一部会
（東村山第四中学校）
 - ◇5月10日 定期総会（中央公民館）
 - ◇6月7日 研究主題の設定、
年間活動方針の決定など
（東村山第二中学校）
 - ◇7月5日 文部科学省英語力調査のための
の事前研修及び調査の実施
（東村山第三中学校）
 - ◇9月6日 使用教材の情報交換
（東村山第二中学校）
 - ◇10月4日 研究授業
授業者：谷田部 有紀 教諭
会 場：東村山第二中学校
内 容：NEW CROWN 2
教 材：Lesson 5 Uluru
 - ◇11月1日 英語教員海外派遣研修報告会
講 師：東村山第七中学校
池本 心和 教諭
 - ◇1月17日 デジタル教科書研修会
講 師：東村山第六中学校
中村 素子 主任教諭
原田 昌幸 教諭
成川 麻衣子 教諭
 - ◇2月14日 研究発表会（中央公民館）
 - ◇3月7日 今年度のまとめ、次年度の
計画（東村山第二中学校）
（東村山第二中学校教諭 野島伸夫 記）

国 分 寺 市

I. 研究主題

「小学校での活動を踏まえた上での実践的コミュニケーション能力の育成」
～小中のスムーズな接続を目指して～

II. 研究の経過

◇4月12日 一斉部会

内 容：研究主題・年間計画の検討

◇6月7日 小中合同英語部会

内 容：小学校における英語活動についてビデオによる授業研究

◇10月4日 研究授業 ほか

授業者：第二中学校

歌田 孝久 主幹教諭

平沼 修子 教諭

柳沢 萌子 教諭

内 容：NEW CROWN

ENGLISH SERIES

Book 1 Lesson 6 My Family

講 師：重松 靖 校長（第二中学校）

◇1月18日 研修会

研究のまとめ

III. 成果と課題

・小中合同での活動機会を設けることによって情報交換をしたり、要望を出しあったりして、それぞれの外国語教育についてより深く理解することができた。また、率直に意見を出し合うことにより、それらを意識しながら授業を計画し、授業改善につなげることができた。

・「知識の学習」から「技能の獲得」への授業転換をさらに進める。

・小学校での学びと中学校での学びを一貫したものとするため、小中連携を一層進め、将来的には中学校ブロック単位での5～7年間を見通したCAN-DOリストを作成したい。

（第四中学校主任教諭 瀬口二三子 記）

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動の充実」

～小学校外国語活動の教科化に向けた小中連携～

II. 研究の経過

◇4月19日 組織編制・主題設定

◇5月31日 研究授業指導案検討

◇5月28日 研究授業及び研究協議・指導講評

授業者：国立第七小学校

鈴木 智代 主任教諭（T1）

筑紫 理左 先生（ALT）

内 容：4年生 “How many apples?”

「いろいろなものを数えよう」

講 師：玉川大学大学院教授

佐藤 久美子 先生

◇7月21日 公開授業指導案検討

◇9月6日 公開授業指導案検討

◇10月25日 公開授業及び研究協議・指導講評

授業者：国立第二中学校

石毛 いずみ 教諭

内 容：1年生 Unit 6 (COLUMBUS 21)

“Breakfast Time”

「ものの場所をたずねたり

答えたりしよう」

講 師：Kim's 英語教育・英語研究所

所長 中村 貴美子 先生

◇1月17日 研究のまとめ

及び研究紀要作成協議

（国立第三中学校教諭 浅田有紀 記）

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に考え判断し表現する児童・生徒の育成」

～小中9年間の連続性を意識して～

II. 研究の経過

- ◇4月15日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月28日 小学校外国語学習
(福生第三小学校にて授業観察)
- ◇9月20日 研究授業(福生第二中学校)
授業者：寺沢 陽子 指導教諭
小林 義知 主任教諭
鈴木 聡美 教諭
Russel Arambro
内 容：NEW CROWN 2
Lesson 5 Uluru
講 師：林 宣之 先生
(福生市教育委員会教育部
教育指導課 統括指導主事)
- ◇1月5日 海外研修報告
福教研研究紀要の作成
- ◇2月14日 福教研報告会
(福生第三中学校教諭 本多康二 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「英語表現を豊かにする工夫」

～オリンピック・パラリンピック教育
の推進～

II. 研究の経過

- ◇5月 一斉部会(定期総会)
研究主題作成など
- ◇7月 部長会
- ◇10月 研究授業・研修会
○テーマ
「英語表現を豊かにする工夫」
○授業者：高橋 ちなつ
○講 師：東京都教育委員会
義務教育指導統括主事
窪田 香 先生
- ◇1月 部長会・研修会
○テーマ
「学習指導要領」の改定について
○講 師：玉川大学文学部准教授
工藤 洋路 先生
- ◇2月 研究活動報告会
- III. 成果と課題
 - ・活動を取り入れた授業展開
 - ・小学校英語との共通理解
 - ・新学習指導要領についての理解
(狛江第四中学校教諭 大石徹郎 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「学習意欲を引き出す導入の工夫～小中連携を意識して～」

II. 研究の経過

◇5月17日 一斉部会 (三中)

研究主題の検討、活動計画の作成

◇7月21日 夏の研修 (一中)

*小中連携を意識した研修会

講 師：文京区立第十中学校

原田 博子 主任教諭

小学校の外国語活動でできた「引出し」から中学校英語は「引出しを整理する手伝いをする」イメージであることを学んだ。授業開始のウォームアップ活動や導入時に学年の先生の話題など生徒と関わりのある状況を作った場面設定をすることなどを教えて頂いた。

◇10月4日 研究授業 (一中)

授業者：東大和市立第一中学校

関 真一朗 教諭

第3学年 Lesson 5

関係代名詞 主格

講 師：国分寺市立第一中学校

相沢 秀和 指導教諭

生徒が興味関心を持ち、楽しみながら意欲的に活動すること、目的意識を持って活動することを再認識した。プロジェクト方式で最初に目的を提示することが大切であることを学んだ。実際に使用しているワークシートなどを紹介して頂いた。

◇11月8日 研修会 (一中)

*各校での実践報告、まとめ

「学習意欲を引き出す工夫について」各校で実践していること

授業で実際使っているワークシートを持参し、各学年に分かれて分科会形式で各校の実践を報告した。

(第一中学校主任教諭 小須田香織 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「確かな学力を育成するとともに、学びへの関心や意欲を高めるための指導方法の工夫」～1つ1つの活動のつながりを意識した授業の探求～

II. 研究の経過

◇4月19日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換
(本年度は小中合同)

◇7～8月 研究会・ワークショップへの参加

◇8月9日 研修会

会 場：清瀬市生涯学習センター

内 容：『CAN-DOリストの作成と活用』

講 師：太田 洋 先生

◇11月1日 教育研究会

会 場：清瀬第五中学校

授業者：小島 崇史 主任教諭

山口 江美子 主任教諭

対 象：1年B組35名

(少人数授業のため2つに分かれる)

単 元：NEW CROWN 1

Lesson 6 My Family

内 容：研究授業、研究協議

各校より実践報告

◇2月14日 研究発表

会 場：清瀬中学校

内 容：研究授業、研究発表

(清瀬第四中学校 中村三知 記)

東久留米市

I. 研究主題

- (1) 「実践的な活動についての具体的な評価について」
- (2) 「長文読解（リーディング）の指導の工夫・改善」

II. 研究の経過

- ◇5月17日 市授業改善研究
研究主題・情報交換
- ◇7月5日 研究授業
久留米中学校1年生
授業者：高橋航介教諭
講師：小学校英語指導者認定協議会
理事 松香 洋子 先生
- ◇11月1日 研究授業
西中学校3年生
授業者：西中学校 中村大樹教諭
講師：小学校英語指導者認定協議会
理事 松香 洋子 先生
- ◇研究のまとめ
 - (1) 音読の指導及び基本動詞を用いた言語活動の指導内容・工夫等について協議・演習を行った。特に生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための指導の工夫改善、評価等について、実際の演習などを取り入れながら研修を深めることができた。
 - (2) 理解の遅れがちな生徒への段階的な指導の工夫、4技能をどのように指導するか、新出単語をどのように定着させていくべきかなど、細かい指導内容・方法について協議を行い、研修を深めることができた。
(中央中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「小中連携を踏まえた効果的な活動」

II. 研究の経過

- ◇4月19日
市教研一斉部会
・組織編成
・研究主題設定
・年間計画 等
- ◇7月3日
第一中学校実践交流会
授業者：伊藤 理絵 教諭
三宅 修二郎 教諭
単元名：ONE WORLD 1
Time for Words 2, 3
「月と季節、日付と序数」
授業者：海川 京子 教諭
安川 優季 教諭
単元名：ONE WORLD 2
Lesson 2 “Soccer Robot”
- ◇10月4日
第二回部会 研修会
講師：宮代町立前原中学校
奥住 桂 教諭
- ◇2月14日
第三回部会 研究授業及び協議会
授業者：第一中学校
三宅 修二郎 教諭
単元名：ONE WORLD 1
Lesson 8 それぞれの冬休み
(第一中学校教諭 三宅修二郎 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「スピーキング力を高めるための
指導方法の工夫」

II. 研究の経過

(1) 一斉部会

日 時：平成29年5月10日

場 所：多摩市立和田中学校

内 容：研究主題と年間計画の決定

(2) 部会

①日 時：平成29年6月7日

場 所：多摩市立落合中学校

内 容：指導法の情報共有

②日時：平成29年11月8日

場 所：多摩市立和田中学校

内 容：研究授業観察と協議

授業者：和田中学校主任教諭

井田 あや子 先生

講 師：東京学芸大学名誉教授

金谷 憲 先生

③日 時：2月16日

場 所：多摩市立青陵中学校

内 容：研究発表

(多摩市立落合中学校教諭 本橋玲大成 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「児童・生徒に自信を持たせるインプッ
トの工夫」

II. 研究の経過

◇5月10日 ビデオによる授業研究

◇6月8日 ワークショップ

講 師：ボーダリンク英語指導相談員、

コーディネーター、

NT (Native Teacher)

◇8月1日 ワークショップ

白百合女子大学 小学校英語セミナー・
ワークショップに参加

◇9月13日 研究授業

授業者：小林 隆介 (稲城第二中学校)

学 年：2学年

単 元：Lesson 5 Uluru

NEW CROWN English series 2

講 師：伊地知 義信 指導教諭

(豊島区立池袋中学校)

◇10月11日 研究授業

授業者：吉原 純子 (稲城第一小学校)

学 年：5学年

単 元：What do you like?

講 師：宮本 弦 先生

(白百合女子大学)

◇11月15日 研究授業

授業者：川口 大輔 (若葉台小学校)

学 年：3学年

単 元：I like apples.

講 師：鈴木 祐介 校長

(調布市立滝坂小学校)

◇1月17日 研究のまとめ

(稲城第五中主任教諭 林田重敏 記)

あ き る 野 市

I. 研究主題

「生徒の学力を向上させるための4技能の指導方法～効果的な小中一貫教育の在り方～」

II. 研究の経過

◇6月7日 授業研究I

会 場：増戸中学校

授業者：山口 由佳 教諭

授業内容：NEW CROWN 3 Lesson 3
Rakugo Goes Overseas

講 師：東京都福生市立福生第二中学校
寺沢 陽子 指導教諭

◇8月24日 授業力向上研修

会 場：五日市中学校

内 容：「小学校外国語活動における
文字指導とコミュニケーション活動」

講 師：小学校英語教育アドバイザー
三浦 邦子 先生

◇10月4日 授業研究II

会 場：一の谷小学校

授業者：藤田 真奈美 教諭

授業内容：Hi, friends 2
Let's go to Italy.

講 師：東京都福生市立福生第二中学校
寺沢 陽子 指導教諭
小学校英語教育アドバイザー
三浦 邦子 先生

◇1月17日 授業研究III

会 場：秋多中学校

授業者：菊池 敦子 主任教諭

櫻田 勢津子 教諭
北川 葵 教諭

授業内容：NEW HORIZON 1 Unit10
あこがれのボストン

講 師：東京都国分寺市立第一中学校
相沢 秀和 指導教諭

(秋多中学校主任教諭 菊池敦子 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる
充実 ～アクティブ・ラーニング、All
English の授業～」

II. 研究の経過

◇5月17日 平成29年度西東京市立 中学校教育研究会

①定期総会及び英語部会

②各校自己紹介・組織作り

③今年度活動方針と活動内容設定

◇11月8日 研究授業と研究協議

会 場：田無第三中学校

研究授業：3年C組教室

授業者：田無第三中学校

山本 美穂 教諭

授業内容：NEW CROWN 3

Lesson 6 Let's Talk 4

講 師：お茶の水女子大学附属高校

指導教授：津久井 貴之 先生

講 演：「新学習指導要領に対応した
英語授業」

今年度の成果と課題：

今年度も昨年度のテーマをほぼ
継承し生徒の学習意欲を高めひ
とり一人を大切にする授業を目
指した。その後、11月の講演
会ではさらに一歩進んで「新学
習指導要領に対応した授業」に
ついての助言を頂いた。次年度
も今年の研究会で習得したこと
をもとに更なる研究活動を行っ
ていきたい。

(田無第四中学校教諭 長澤利尚 記)

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「習得を活用に
より深い学びにつながる学習」

II. 研究の経過

- ◇5月10日 一斉部会
会 場：平井中学校
内 容：本年度の研究主題の決定
- ◇7月25日 夏季研修会
会 場：羽村第三中学校
内 容：学習した内容を英語のコミュニ
ケーションや自己表現につなげ
る研修会
講 師：都立小石川中等教育学校
井村 哲也 指導教諭
- ◇10月25日 一斉教科部会
会 場：羽村第三中学校
内 容：研究授業 協議会
授業者：羽村第三中学校
三浦 有希 主任教諭
西岡 礼奈 教諭
講 師：青梅市教育委員会
教育支援室
田中 眞 教育アドバイザー
- ◇2月7日
会 場：羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ 小ホール
内 容：全体研修会 研究発表
- ◇2月16日
会 場：長岡コミュニケーション
センター
内 容：年度反省・まとめ
(羽村第三中学校教諭 西岡礼奈 記)

大 島 町

I. 研究主題

「学力向上を目指した基礎学力定着のた
めの工夫～小学校での英語教科化を踏
まえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月19日 大島町中学英語研究会
①平成28年度活動報告
②平成29年度組織作り
研究主題・年間活動計画の検討
- ◇6月7日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第二中学校
①研究授業
対 象：第2学年
授業者：吉本 洋人 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇10月11日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第一中学校
①研究授業
対 象：第3学年
授業者：上野 洋平 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇11月29日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立つばき小学校
対 象：第5学年
授業者：稲葉 真一郎 先生
①研究授業
②情報交換
- ◇1月24日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第三中学校
①研究授業
対 象：第1学年
授業者：中野 峻佑 先生
②研究協議
③本年度の反省と来年度の課題協議
(第二中学校主幹教諭 吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導
の工夫」

II. 活動の経過

◇5月10日 第1回部会

研究主題、活動計画、組織作り

◇7月12日 第2回部会

①研究授業

会 場：三根小学校

対 象：第6学年

授業者：谷口 由嘉子 主任教諭

市倉 隆司 教諭

エマールフランソワ 夏樹 教諭

②協議

③情報交換

◇国際理解教室

講 師：Turbadrakh Nomunzul

(モンゴル出身)

◇11月30日 三原中学校、大賀郷中学校

◇12月1日 富士中学校

◇12月19日 第3回部会

①研究授業

会 場：三原小学校

対 象：第6学年

授業者：富宅 剛太 主任教諭

峯重 透 教諭

②協議

③情報交換

◇1月17日 第4回部会

①研究授業

会 場：大賀郷中学校

対 象：第3学年

授業者：石橋 弘毅 主幹教諭

②協議

③年度末反省・まとめ

④情報交換

(富士中学校教諭 市倉隆司 記)

平成 29 年度
中英研事業報告

1. 4月21日（金）役員会
於：港区立御成門中学校
 - ①役員組織等の確認
 - ②年間事業計画の検討
 - ③中英研定期総会に向けて
 - ④役員会の日程について
 - ⑤関ブロ長野大会について
 - ⑥全英連新潟大会について
2. 5月11日（木）定期総会・懇親会
於：港区立御成門中学校
 - ①28年度事業報告・決算報告
 - ②28年度会計監査報告
 - ③新役員の承認
 - ④29年度行動目標の承認
 - ⑤29年度事業計画・予算の承認
 - ◎講演会
「これからの中学校英語教育
～ CAN-DO リスト活用の推進～」
講師：投野 由紀夫 先生
(東京外国語大学大学院教授)
 - ◎懇親会
3. 6月21日（木）役員会
於：港区立御成門中学校
 - ①都研修センター研究普及事業等について
 - ②中英研HPについて
 - ③総会・囲む会について
 - ④関ブロ東京大会について
4. 7月11日（火）役員会
於：港区立御成門中学校
 - ①HPの更新について
 - ②各部夏期ワークショップの確認
 - ③地区幹事会の確認
 - ④関ブロ長野大会について

- ⑤大都市英語教育研究協議会
5. 8月3日（木）
研究部夏季語い指導ワークショップ
第1回
於：千代田区立九段中等教育学校
講師：壽原 友理子 先生
(都立両国高等学校附属中学校)
藤野 康明 先生
(多摩市立多摩中学校)
水嶋 諒 先生
(江東区立深川第四中学校)
8月10日（木）第2回
於：豊島区立池袋中学校
講師：太田 裕也 先生
(八王子市立第六中学校)
溪内 明 先生
(文京区立第八中学校)
関口 智 先生
(江戸川区立清新第一中学校)
8月22日（火）第3回
於：品川区立荏原第六中学校
講師：佐藤 優 先生
(多摩市立鶴牧中学校)
岡崎 伸一 先生
(品川区立荏原第六中学校)
上尾 栄美子 先生
(足立区立第五中学校)
 6. 8月18日（金）
サマーワークショップ（事業部主催）
於：目黒区立目黒中央中学校
講師：柳町 啓次 先生
(青梅市立泉中学校)
伊東 卓思 先生
(葛飾区立新小岩中学校)
講演：田口 徹 先生
(明治学院大学非常勤講師)
 7. 8月24日（木）
夏期ワークショップ（調査部主催）
於：千代田区立九段中等教育学校
講演・講師：工藤 洋路 先生
(玉川大学准教授)
講師：本多 敏幸 先生

- (九段中等教育学校指導教諭)
8. 8月25日(金) 地区幹事会
 於：港区立御成門中学校
 各地区の活動状況について
 (講演会)
 「Welcome to Tokyoを活用した
 授業実践について」
 講師：関谷 さやか 先生
 (教育庁指導部指導企画課指導主事)
9. 9月29日(金) 役員会
 於：港区立御成門中学校
 ①各部夏期ワークショップの報告
 ②地区幹事会の報告
 ③関プロ長野大会、東京大会
 ④2月研究発表会について
10. 10月13日(金)
 第57回大都市公立中学校英語
 教育研究連絡協議会川崎市大会
11. 10月23日(月)
 「都中英研だより」第71号発行
12. 10月24日(火)
 授業力アップ研修会(事業部主催)
 於：国分寺市立第三中学校
 授業者：亀田 洋斉 先生
 (国分寺市立第三中学校)
 講師：重松 靖 先生
 (国分寺市立第二中学校長)
13. 11月10日(金) 役員会
 於：港区立御成門中学校
 ①関プロ長野大会、東京大会
 ②英語学芸大会について
 ③研究部研究発表会について
 ④授業力アップ研修会報告
 ⑤会報の原稿執筆依頼について
14. 11月17日(金)
 第41回関東甲信地区
 英語教育研究協議会 長野大会
 於：下諏訪総合文化センター他
 分科会発表者：伊藤 智子 先生
 (足立区立江北桜中学校)
 助言者：中谷 愛 統括指導主事
 (東京都教職員研修センター)
15. 11月22日(水) 23日(木)
 第67回全国英語研究大会新潟大会
 於：第1日目 新潟市民芸術文化会館
 第2日目 朱鷺メッセ
16. 11月21日(火)
 プロジェクトチーム部研修会
 於：中野区立第八中学校
 テーマ：「CAN-DOリストを
 活用した授業」
 授業者：飯沼 美千代 先生
 (中野区立第八中学校)
 講師：本多 敏幸 先生
 (九段中等教育学校指導教諭)
17. 12月3日(日)
 第70回英語学芸大会
 於：豊島区立千登世橋中学校
18. 1月25日(木) 役員会
 於：港区立御成門中学校
 ①研究部発表会について
 ②次年度組織について
19. 2月23日(金)
 中英研研究部発表会
 於：江戸川区立清新第一中学校
 授業者：関口 智 先生
 研究発表：「語いと英語教育(41)」
20. 2月 役員会(予定)
 於：未定
 ①研究部発表会報告
 ②平成30年度役員人事について
 ③次年度活動計画について
21. 3月中旬「中英研会報」発行予定
22. 3月 役員会(予定)
 於：未定
 ①29年度各部事業・決算報告
 ②次年度新役員構成の確認
 ③次年度総会について
 ④情報交換
 (副会長 刀根 武史 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。

6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
 2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

- 第11条 会議は次のとおりとする。
1. 総 会
毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
 2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
 3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
 4. 部 会
[総務部] 庶務、会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

- 第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
- 第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。
- 第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

- 第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。
- 第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
- 第18条 細則は幹事会で定めることができる。
- ※改定第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

平成 29 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	石 鍋 浩	港 区 立 御 成 門 中 学 校
副 会 長	刀 根 武 史	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
”	五 十 嵐 浩 子	小 平 市 立 上 水 中 学 校
”	惣 田 修 一	練 馬 区 立 大 泉 中 学 校
”	和 田 文 宏	大 田 区 立 蒲 田 中 学 校
”	佐 藤 ひろみ	八 王 子 市 立 横 川 中 学 校
”	田 谷 至 克	墨 田 区 立 両 国 中 学 校
”	後 藤 正 彦	国 分 寺 市 立 第 一 中 学 校
”	難 波 浩 明	足 立 区 立 第 十 四 中 学 校
”	遠 藤 哲 也	足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校
”	横 山 達 也	八 王 子 市 立 第 七 中 学 校
担当副会長	遠 藤 哲 也	足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校
総務部長	刀 根 武 史	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
経理部長	佐 藤 ひろみ	八 王 子 市 立 横 川 中 学 校
副 部 長	田 中 誠 一 郎	三 鷹 市 立 第 六 中 学 校
部 員	近 藤 浩	板 橋 区 立 向 原 中 学 校
”	新 野 美 紀	練 馬 区 立 大 泉 桜 学 園 中 学 校
”	長 尾 諭	大 田 区 立 石 川 台 中 学 校
”	佐 々 木 昭 央	目 黒 区 立 目 黒 第 九 中 学 校
”	西 卷 美 雪	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
”	樋 口 明 香 里	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
”	大 槻 菜 々 子	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
担当副会長	五 十 嵐 浩 子	小 平 市 立 上 水 中 学 校
調査部長	五 十 嵐 浩 子	小 平 市 立 上 水 中 学 校
副 部 長	本 多 敏 幸	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校
”	大 森 博	練 馬 区 立 中 村 中 学 校
部 員	荒 川 高 広	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校
”	大 木 田 陽 子	文 京 区 立 茗 谷 中 学 校
”	大 澤 陽 子	世 田 谷 区 立 駒 沢 中 学 校
”	大 竹 希 依 子	八 王 子 市 立 長 房 中 学 校
”	加 藤 真 由 子	調 布 市 立 第 五 中 学 校
”	上 水 謙 治	小 平 市 立 小 平 第 五 中 学 校
”	樫 野 真 弓	武 蔵 野 市 立 第 五 中 学 校

役名	氏名	所属校
部員	岸川裕子	府中市立府中第七中学校
"	木村弘恵	品川区立浜川中学校
"	斉藤基	日野市立日野第三中学校
"	白井靖子	江東区立深川第三中学校
"	鈴木悟	東京都立両国高等学校附属中学校
"	鈴木美帆	杉並区立向陽中学校
"	須藤礼子	世田谷区立世田谷中学校
"	高瀬ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
"	丹生幸宣	小平市立上水中学校
"	永井剛	日野市立七生中学校
"	西尾恭子	中野区立第四中学校
"	前田秋輔	品川区立荏原第六中学校
"	松村祐輔	足立区立竹の塚中学校
"	宮崎太樹	八王子市立ひよどり山中学校
"	山下郁子	日野市立大坂上中学校
担当副会長	後藤正彦	国分寺市立第一中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第七中学校
副部長	相沢隆二	目黒区立目黒中央学校
"	大屋剛	足立区立西新井中学校
"	前川卓哉	渋谷区立松濤中学校
部員	米澤登志子	世田谷区立弦巻中学校
"	明石達彦	江戸川区立西葛西中学校
"	宮野和子	府中市立浅間中学校
"	斉藤節子	清瀬市立清瀬第三中学校
"	漆畑拓也	町田市立鶴川中学校
"	大竹希依子	八王子市立長房中学校
"	亀田洋斉	国分寺市立第三中学校
"	川越智子	北区立飛鳥中学校
担当副会長	和田文宏	大田区立蒲田中学校
研究部長	伊地知義信	豊島区立池袋中学校
副部長	関口智	江戸川区立清新第一中学校
"	原田博子	文京区立第十中学校
"	溪内明	文京区立第八中学校

役名	氏名	所属校
副部長	上尾 栄美子	足立区立第五中学校
部員	江濱 悦子	大田区立大森第四中学校
〃	中川 智子	大田区立志茂田中学校
〃	前田 宏美	葛飾区立四ツ木中学校
〃	岡崎 伸一	品川区立荏原第六中学校
〃	福島 美記子	杉並区立荻窪中学校
〃	壽原 友理子	東京都立両国高等学校附属中学校
〃	福田 真希子	江戸川区立鹿本中学校
〃	島田 朋美	荒川区立第四中学校
〃	水嶋 諒	江東区立深川第四中学校
〃	高杉 達也	千代田区立九段中等教育学校
〃	新井 正秀	板橋区立赤塚第一中学校
〃	太田 裕也	八王子市立第六中学校
〃	佐藤 優	多摩市立鶴牧中学校
〃	古川 悟	品川区立荏原第六中学校
〃	松木 大典	渋谷区立原宿外苑中学校
〃	藤野 康明	多摩市立多摩中学校
〃	堀田 奈梨子	大田区立馬込東中学校
〃	三上 健二郎	大田区立出雲中学校
〃	森沢 俊彦	品川区立荏原第五中学校
担当副会長	惣田 修一	練馬区立大泉中学校
出版部長	今本 由美子	練馬区立大泉学園中学校
副部長	小柳 守生	足立区立西新井中学校
部員	溝口 千里	練馬区立石神井西中学校
〃	中井 正弘	小平市立小平第一中学校
〃	福田 貴音	台東区立御徒町台東中学校
〃	鈴木 咲子	清瀬市立清瀬第二中学校
〃	當麻 忠幸	西東京市立明保中学校
〃	岩田 歩	調布市立第五中学校
〃	深山 朋子	練馬区立北町中学校
〃	和田 圭史	杉並区立高井戸二中中学校
〃	柳 絵未	江戸川区立葛西第三中学校
〃	辻 賢哲	渋谷区立笹塚中学校

あ と が き

ここに、平成 29 年度「中英研会報」第 76 号をお届けいたします。

本誌の発行に際しては、上智大学 特任教授 吉田 研作 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに心から御礼申し上げます。各地区におかれましても、大変お忙しい中、地区幹事の皆様のご協力により、全地区から「地区活動状況」をご提出いただき、掲載することができました。この各地区の活動状況のページを読ませていただくと、それぞれの地区で様々な工夫をされながら研修に取り組んでいる様子が伝わって参ります。データ入稿にもご協力いただき、ありがとうございました。

今号では、新学習指導要領全面実施に向けた各研究、研修会等の報告も多く掲載されています。是非お読みいただき、会員の皆さま自身の、また各地区でのご準備の参考とさせていただければと思います。この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てることを願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研会報 第76号

平成30年3月7日印刷
平成30年3月7日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 石鍋 浩

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都港区立御成門中学校
東京都港区西新橋3-25-30
TEL (03) 3436-3551

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL (03) 5741-3146